

江戸川区青少年育成地区委員会設立60周年記念誌

# 地域のきずな 60年

江戸川区青少年育成地区委員会

江戸川区



# 目 次

## 1 あいさつ

|                    |         |   |
|--------------------|---------|---|
| 江戸川区青少年育成地区委員長会 会長 | 田 中 稔 家 | 2 |
| 江 戸 川 区 長          | 多 田 正 見 | 3 |

## 2 最近 10 年のあゆみ 4

## 3 各地区委員会の動き

|                 |    |
|-----------------|----|
| 小松川平井地区委員会      | 6  |
| 松 江 南 地 区 委 員 会 | 8  |
| 松 江 北 地 区 委 員 会 | 10 |
| 西小松川地区委員会       | 12 |
| 一之江地区委員会        | 14 |
| 小岩中部地区委員会       | 16 |
| 北小岩地区委員会        | 18 |
| 西小岩地区委員会        | 20 |
| 南小岩地区委員会        | 22 |
| 下小岩地区委員会        | 24 |
| 鹿本地区委員会         | 26 |
| 京 葉 地 区 委 員 会   | 28 |
| 瑞 江 地 区 委 員 会   | 30 |
| 篠 崎 地 区 委 員 会   | 32 |
| 葛 西 地 区 委 員 会   | 34 |
| 葛西第一地区委員会       | 36 |
| 葛西第二地区委員会       | 38 |

## 4 資料

|                |    |
|----------------|----|
| 各地区委員会歴代委員長名簿  | 40 |
| 各地区委員会の組織図・委員数 | 42 |

## 5 あとがき 46



## 青少年育成地区委員会設立60周年にあたり

江戸川区青少年育成地区委員長会

会長 田 中 稔 家

青少年育成地区委員会が60周年を迎えました。これまで青少年の健全育成の中核を担う役割を果たしてこられたのも、江戸川区や関係機関・団体、そして、地域の皆様をはじめとした先輩各位の多大なるご指導・ご支援・ご協力があったからこそです。皆様に深く敬意を表しますとともに、厚く御礼を申し上げます。

戦後11年を過ぎたとはいえ、まだ社会が混乱し、少年少女の非行が多かった昭和31年に、青少年の健全育成には地域全体の力を結集して取り組まなくてはならないとの強い使命感から、江戸川区青少年問題協議会の下部組織として青少年育成地区委員会は設立しました。発足以降、急激な社会情勢の変化は青少年を巻き込み、心身の成長に多大な影響を与えてきました。経済成長に伴う都市化・核家族化は地域社会のつながりを希薄にし、個人主義的な考えが広がりました。少子化は高学歴・競争社会を生み、子どもたちは塾や習い事に追われました。そして、急速な通信メディアの進歩により、インターネットやスマートフォン、多彩なゲーム等、一人で過ごす時間が多くなり、地域で元気に遊ぶ子どもを見かけることが少なくなってきました。

「子どもは地域で育つ」と言われながらも、地域の多くの大人によって支えられていた「地域の教育力」は地に落ちて久しく、それを取り戻すことが喫緊の課題です。このことに私たちがあらためて気付かされたのが、平成23年3月に起きた東日本大震災です。人と人とのつながり、地域で助け合う絆がどれほど大切かを思い知らされました。

子どもは次代を担う宝です。子どもたちの未来を思い、育てようと活動している団体・機関は地域に多数あります。それぞれの成り立ち、役割、目的、目標は多岐にわたりますが、これらの団体・機関が共通の目標を持って、相互に補完し合いながら活動することによって、より一層大きな力となります。そして、青少年の健全育成のために、これらの団体・機関をまとめ、横断的に連携し、地域で活動している唯一の団体が私たち青少年育成地区委員会だと自負しています。

区内には17の地区委員会があり、それぞれの地域の特性に応じた活動をしています。

60周年の節目にあたり、せっかく芽生えた絆への思いを大切に、情報交換・協議・調整を重ねながら協力関係を築き、助け合うことによって各団体の発展を期するとともに、地域全体で青少年の健全育成活動をより充実させ、さらに青少年の健全育成に寄与するため、私たち青少年育成地区委員会はこれからも努力していく所存です。

これまでのご協力に感謝するとともに、今後とも皆様方のご指導とご支援をお願い申し上げます。



## 「青少年育成地区委員会設立60周年記念」 お祝いの言葉

江戸川区長

多田 正 見

青少年育成地区委員会の設立60周年を心からお喜び申し上げます。

あらためて、青少年育成地区委員の皆様のご健全育成に関わる様々な取り組みに深く敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げます。

青少年健全育成の歴史を振り返りますと、時代を反映した様々な社会問題が見えてきます。昭和30年代は戦後の混乱の中で少年非行が社会問題となり、昭和40、50年代には核家族化が進み、不登校やいじめ、校内暴力や暴走族が大きな問題となりました。そして、平成に入ると安易な違法薬物の使用や援助交際の流行が青少年を脅かす一方、パソコンやスマートフォンによるネット利用の拡大とSNSの急速な普及により、アダルトサイトの容易な閲覧に伴う膨大な代金請求や、自らを被写体とした画像を他人に不当に求められ送信してしまう自撮り被害が新たな問題となっています。

江戸川区ではこのような多くの問題の解決に青少年育成地区委員会とともに取り組んできました。江戸川区の健全育成行政の歩みは地区委員の皆様とともにあるといっても過言ではありません。

地区委員の皆様のご支援のおかげで、江戸川区の青少年は勉強や運動に懸命に励みながら、地域まつりをはじめ様々な行事で活躍するなど、地域に活力を与える大きな原動力となっています。青少年の健やかな成長と活躍は皆様の日ごろから限らない情熱を持って多角的に青少年育成の取り組みを推進してくださっているのおかげです。

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催が決定し、江戸川区ではカヌー・スラローム競技が開催されます。競技会場となる葛西臨海公園の隣接地には、国内で初の人工の流れによる競技コースの建設が始まりました。2年後には国内外から多くの人々が本区を訪れることでしょう。そして、この一大イベントの成功には、これまで培ってきた地域力をもとに、いろいろな場面での青少年の活躍が不可欠です。

すべての江戸川区民は次代を担う青少年が心豊かにたくましく成長し活躍することを願っています。地区委員の皆様一人ひとりがその期待に応え、取り組まれることで、青少年育成地区委員会がますます躍進されますことをご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



## 最近 10 年のあゆみ

60 周年記念誌の発行を機に、50 周年（平成 19 年度）以降の青少年育成地区委員会（以下「地区委員会」）の主な動きを、世の中の動きと合わせてまとめました。

この 10 年は子どもたちを取り巻く環境が激変した 10 年と言えるでしょう。特にインターネットやスマートフォンの普及は、子どもたちのコミュニケーションのあり方を大きく変えることとなりました。

### ◇小松川地区委員会・平井地区委員会合併

地区委員会の区域は役所の旧出張所単位で構成され、当初 16 地区委員会で設立されました。後に一之江地区、京葉地区が誕生し、永らく 18 地区委員会で活動してきました。

小松川地区と平井地区は荒川と旧中川に囲まれ、他地区とは独立した環境にあり、いくつかの大きな行事は合同で実施してきました。近年、委員の高齢化による活動の難しさなどを契機として、合併の検討がなされ、平成 25 年に小松川平井地区として新たにスタートしました。

### ◇小学校長会地域連携部との意見・情報交換会の開催

小学校長会の内部組織として「地域連携部」があります。地域連携部は小学校と地区委員会との連携の観点から、地区委員長会との情報交換会を毎年開催しています。平成 29 年度は区内を 4 ブロックに分け、各地区委員長と当該地区の学校長が参加し、「情報共有のあり方」について懇談しました。

学校側から発信された情報を、地区委員会側がどう受け止めて活動していくか、共通理解を図りました。

### ◇子どもの貧困問題

アベノミクス政策により景気回復はされているものの、所得向上等の生活面での実感がなく、むしろ貧困世帯が増加し、子どもの貧困問題がクローズアップされてきました。平成 24 年にはおよそ 6 人に 1 人が貧困に置かれていると言われています。

区では子どもの成長支援として平成 28 年から順次、「江戸川さくら塾」などのひとり親家庭学習支援事業や共有プラザでの「1655 勉強 cafe」、「なごみの家」での子ども食堂など、多くの施策を展開しました。地区委員会では合同研修会で「子どもの貧困」をテーマに取り上げ、地域で対応できることなどの理解を深めました。

### ◇インターネットトラブル、自画撮り被害等

インターネットや携帯電話、スマートフォンの急速な普及により、有害サイトへの接続に関するトラブルや、「JK ビジネス」と呼ばれる女子高生のサービス業態での性被害、SNS で知り合った相手に女子中高生が自分の裸の画像を送信させられる「自画撮り被害」が増加しました。平成 29 年、東京都青少年問題協議会は「児童ポルノ等被害が深刻化する中での青少年の健全育成について」と題する緊急答申を発表し、被害防止に向けた対応策を打ち出しました。この問題は、区青少年問題協議会でも議題として取り上げられ、学校、PTA、地区委員会等、関係団体の委員により活発に議論されました。地区委員長会においても会議の内容が報告され、関係機関との連携の取り方など、対応策を確認しました。

## 各地区委員会の動き

# “地域愛”と“育てる力”

青少年育成小松川平井地区委員会

## 1 地域の現況

小松川・平井地区は江戸川区の西部に位置し、2万9千世帯・約5万8千人の人口からなり、周辺を荒川・旧中川といった河川に囲まれた緑豊かな地域です。地域を南北に分けるように JR 総武線が通り、JR 平井駅から南側に小松川地域・平井一丁目～四丁目があり、北側に平井五丁目～七丁目があります。荒川河川敷は小松川運動公園、平井運動公園、大人の野球場、少年野球場、ソフトボール場、ゲートボール場、少年サッカー場などスポーツ環境に恵まれた地域で、多くの人がそれぞれの活動で汗を流しています。小松川地区にある大島小松川公園は、休日には他地域からも多くの人が集まり、スポーツやバーベキューなどを楽しむ憩いの場となっています。小松川地区には防災施設もあり、高層住宅が立ち並ぶほか、小松川千本桜の完成など近代的なまちとして生まれ変わり、平井地区も 120 号線事業など公共インフラ整備が進み、これまで以上に安全で便利なまちとなりました。現在この地区には小学校 6 校、中学校 3 校、高等学校 1 校があり、PTA 関係者、保護司、民生・児童委員の方々と協力し、地域の青少年の健全育成の環境づくりを行っています。小松川・平井地区の地域住民は、地域に対する誇りと愛着が強く、住民同士の結びつきが強いまちとなっています。

## 2 現在の地区委員会の活動

この地域は、5 年前まで小松川地区委員会と平井地区委員会の 2 つの地区委員会で独自の行事に取り組んだり、両地区委員会での共催イベントに取り組んできました。しかし、両地区委員会参加の委員の高齢化や参加者の減少もあり、両地区委員会を合併し、平成 25 年度から新たに小松川平井地区委員会として再スタートしました。

### 実施行事

- ①定例活動 毎月第二水曜日に定例会を開催（1 月と 8 月を除く）
- ②地域活動
- ③小学校卒業記念ナイトウォーク



小松川・平井地区の小学校 6 校の 6 年生を対象に、小学校卒業の思い出になる企画として平成 5 年から現在まで 24 回実施しており、毎年 3 月最後の土曜日の夜から日曜日の朝にかけて東京都内を約 27 キロ歩くイベントです。当地区委員会が中心になり、各小学校の校長先生や先生方と PTA や地域のお父さんの会、小松川警察など多くの人の協力で実施しています。近年では小学生の時に

参加した子どもたちが大人になり、実行委員や班リーダーとして一緒に参加しています。

### ④小松川平井地区連合大運動会

小松川・平井地区は 51 の町会・自治会で連合町会を組織しています。その連合町会の大イベントが連合大運動会です。競技は小松川平井地区委員会を中心に 11 団体・約 450 名の実行委員によって運営され、毎年多くの方々が参加しています。平成 29 年度は延べ 2,855 名が参加しました。



#### ⑤ふるさとまつり

可愛い保育園児のお子さんや、小学校の児童のパレードに始まり、長寿会の方々まで、全ての地域住民が自由に参加して楽しむことができる大変素晴らしいまつりです。



#### ⑥自転車盗ゼロ作戦

青少年の健全育成を図ることを目的に、地域・学校・警察・江戸川区の協働で、中学生を中心に「盗難自転車なくし隊」を結成し、自転車盗ゼロを目指しています。

#### ⑦学校に泊まろう

「地元で遊ぼう」をテーマに行い今年で4年目を迎えます。参加対象の小学校4～6年生の子どもたちが、毎年参加しても新しい体験ができるよう、毎回新しい企画を立案しています。

#### ⑧ふれあいスポーツ体験

子どもたちにスポーツをする楽しさを体験してもらう企画です。

#### ⑨すこやか武道体験

体験を通して日本古来よりある武道の一端を知ってもらうことを目的としています。

#### ⑩小松川平井マラソン大会

毎年1月上旬、荒川河川敷で行っています。小学校・中学校の児童・生徒約800人が参加する、恒例の新春スポーツイベントです。

#### ⑪凧作り凧揚げ大会

毎年1月中旬に行われます。凧の会の蒲倉講師の指導のもと、伝統的な凧を和紙で作し、荒川の土手で凧揚げをします。

### 3 今後の課題

わが町、小松川・平井地区にも少子高齢化の波がじわじわと押し寄せてきています。地区内に7校あった小学校も統合されて6校になり、今後も減少の方向に進んでいきます。私たち地区委員がただ手をこまねいているだけでは地域は衰退していき、地区委員会も自然消滅するかもしれません。

当地区委員会では、連合大運動会の運営にも深く関わっていますが、高齢化のため、ここ数年の間に参加町会も減ってきています。また定例会をはじめ各種行事への参加率が下落傾向にあります。そこで『青少年育成』の名の下に活動をしている私たちは、事あるごとに小学校、中学校に顔を出し、学校の教職員や児童、生徒とも顔見知りになり、関わりを深めることが肝心です。そして大人も子どももお互いに挨拶を交わし、近しい関係性を築くことで、子どもたちの悩みや、小さな異変にも気が付ける様になっていることが大切です。地区委員会にて行われる全ての行事や会議について、無駄なことの見直しを図り、委員一人ひとりの負担を軽減することが今後の課題です。

# かがやけ 松江南

—— 青少年育成松江南地区委員会 ——

## 1 地域の現況

松江南地区は区の中央部に位置し、古くから開けた地域で、ここで生まれ、育ち、学び、働く方が少なくない地域です。

しかし近年、農地、町工場、商店が減り、一方で大きなマンションが建ち新たな住宅街ができ、地域外からの転入者が増え、街の様相は一気に変わってきました。

この10年地区委員会は、活動の認知度を上げることと活動の担い手の確保を目指して努力してきました。皆様のご理解とご協力のおかげをもって、町会から分担金を値上げしていただき、さらなる活動の拡充を図るに至りました。地区委員長は真田氏から神原氏に代わりましたが、地域の諸団体推薦の140名余の地区委員が、運営委員会のかじ取りのもと、青少年育成部、研修部、広報部の活動をする体制を継承しています。特に運営委員会は町会長、学校長、PTA会長、区子連支部長などが所属して、様々な視点から地域に関わる話題を話し合っています。

### 松江南地区委員会を構成する諸団体

|             |          |           |          |         |
|-------------|----------|-----------|----------|---------|
| (1) 小学校・PTA | 松江小学校    | 西一之江小学校   | 大杉東小学校   | 東小松川小学校 |
| (2) 中学校・PTA | 松江第一中学校  | 松江第四中学校   | 松江第六中学校  |         |
| (3) 都立学校    | 白鷺特別支援学校 |           |          |         |
| (4) 町会・自治会  | 東小松川南町会  | 東小松川二丁目町会 | 東松一丁目町会  | 松江二丁目町会 |
|             | 西一之江原町会  | 貞明町会      | 松江東町会    | 松江南町会   |
|             | 西一之江中辻町会 | 都営松江自治会   |          |         |
| (5) 子ども会    | ひがこま子ども会 | 東二杉の子親子会  | 東松仲よしクラブ | 若葉子ども会  |
|             | 原子子ども会   | 貞明子ども会    | 松江東子ども会  | 中辻子ども会  |

※青少年委員 ※スポーツ推進委員 ※民生・児童委員 ※保護司 ※少年補導員 ※ジュニアリーダークラブ“輝”

## 2 現在の地区委員会の活動

### (1) 運営委員会や各専門部の定例会

年に5～6回、行事の打ち合わせや反省の他、各団体の情報交換の場になっています。

### (2) 安全・安心会議（運営委員会）

地域の安全安心に関わる学習会や話し合いで、防犯から始まりましたが、今は防災や福祉にも取り組んでいます。

### (3) グラウンドゴルフ大会（青少年育成部）

中央地域まつり等の行事のお手伝いをしてくれた中学生を招待して、地区委員同士が家族も交えて親睦します。



(4) ドッジビー大会(青少年育成部、区子連松江南支部共催)

平成 27 年まで子ども会対抗のドッジボール大会を行っていましたが、事故の心配などからドッジビー大会に変更しました。

(5) プレイパーク(青少年育成部)

年 3 回、地域内の 3 小学校の校庭を会場に日曜日の午前中、地域の子どもたちを自由に遊ばせています。9 月はプールでいかだ遊びをします。



(6) たこあげ大会(青少年育成部・研修部)

地域内に広い場所がないので、江戸川河川敷に出かけてたこを手づくりして連だこをします。

(7) 研修会(研修部)

研修部員が話し合って企画し、毎年違った話題で地区委員全員を対象とした研修会を開催しています。

(8) 広報紙「コミュニティ松江南」の発行(広報部)

年 2 回発行で平成 29 年 10 月で 84 号となりました。A4 版二ツ折カラー印刷で、斬新な編集が評判です。



### 3 今後の課題

この 10 年で子どもを取り巻く環境は、家庭生活も含めて大きく変わりました。あふれる情報に対応するため、親はもちろん子どもの生活も多忙になり、子どもと地域の関わりは希薄になりつつあり、PTA や子ども会の活動も変化しています。しかし家庭や学校だけでは抱えきれない問題の受け皿として、子どもたちが将来懐かしく思い出す故郷として地域の存在の重要さは変わりません。

ジュニアリーダークラブや子ども会、PTA 推薦の若い委員が増えたことで地区委員会は行事の担当者は確保しつつありますが、多忙のため 1~2 年で交代してしまい、地域活動の担い手の中核に育つには至っていません。ひきかえ、地区委員会活動を支えてきた役員は熟年世代となりました。

地区委員会が、家庭、学校、地域の連携の要となり、子どもたちの健全育成と、ともに幸せに生きる社会づくりに寄与するために何をしていくのか、そしてそれを若い世代にどう引き継いでいくかが今後の重要な課題です。





# ふ れ あ い の 松 江 北

青少年育成松江北地区委員会

## 1 地域の現況

5つの町会（東四・五北・五南・大杉・江上）と1つの自治会（中央団地）で松江北地区委員会は構成され、管轄地域は中央・大杉・松島の一部・西一之江の一部で、区役所本庁舎・総合文化センター・グリーンパレス等が所在しており区民が大勢集う地域でもあります。

各町会・自治会より選出された74名の地区委員は、各部（総務・少年・青年・成人・広報）に所属し、年齢は40～70歳代と幅が広く、それぞれが各部で力を発揮しています。昭和59年から、各町会・自治会長が副委員長を兼ね、その中より委員長が選出され、横の連絡等は確実に伝わり、毎月第四水曜日には運営委員会を開催しています。運営委員会では、42名のうち35名近くが出席し、行事の確認と報告、意見の交換等、充実した内容で開催しています。

また、故・金井前委員長の後を引き継ぎ、子ども見守り隊は本年度11年を迎えました。保護者、学校、地域から感謝されています。

### 【松江北地区3つのスローガン】

- ①挨拶 ②笑顔 ③地域の輪

## 2 現在の地区委員会の活動

本地区委員会は「青少年の健全育成をはかる」ため地域力を結集し、「青少年をめぐる社会環境の整備をはかる事」を目的として、各専門部が次の活動を行っています。

### （1）総務部 部長 安井 勇

- ①4・5月…あいさつ運動（中央管内）
- ②5月…中央地域まつり庶務部会に協力
- ③6月…総会（決算・事業報告、予算・事業計画案）
- ④7・8月…夜間パトロール  
（管内を3コースに分けてパトロール）
- ⑤10月…中央・一之江ふるさとまつり  
庶務部会に協力
- ⑥1月…新年会  
（来賓を招いて新年の顔合わせ）
- ⑦毎月実施予定…運営委員会
- ⑧定期的に実施…子ども見守り隊活動



学校プレイパーク

### （2）少年部 部長 元木 典子

子どもたちに多くの体験と社会的な関わりの中で、人間性豊かな子どもを育てる行事を実施しています。

① デイキャンプ（参加人数 80 名前後）

小学生 4 年生以上を対象に、グループ単位で野外料理（カレー作りと飯盒炊飯）を体験してもらいます。子どもたちは薪でご飯を炊く時の煙に苦勞していましたが、目に涙を浮かべ一生懸命に頑張っていました。食後は全員で食器の片づけをして終了。

② 学校プレイパーク

現在 4 校（大杉小・大杉第二小・大杉東小・第三松江小）にて実施中。昔のあそび（紙ヒコーキ・紙トンボ・ペンダント作り・石焼き芋等）を体験してもらいます。のびのびと昔のあそびにチャレンジしていました。

③ 6 年生卒業おめでとうボウリング大会

小学校を卒業すると全員が同じ中学校に進学するとは限らない 6 年生に、印象に残るようなボウリング大会を実施。友達同士和やかに行われ、1 位～5 位までの表彰式の後には全員で昼食を取りました。

**（3）青年部 部長 片寄 昌彦**

①5 月…デイキャンプ（少年部合同） ②11 月…スポーツ大会（町会対抗グラウンドゴルフ）

③1 月…ボウリング大会 ④年 4 回…学校プレイパーク（小学校 4 校、少年部合同）

⑤毎月第 1・3 木曜日…バドミントン教室 ⑥毎月第 2・4 木曜日…卓球教室

卓球教室には毎回 4～50 人の小学生が、バドミントン教室には毎回 30 人を超える中学、高校生に参加して頂いています。青年部という部署がら、より多くの中学生以上のお子さんに関わりを持ちたいと模索しており、現在は江戸川区内の文化財等、歴史的な事が見学散策するような会ができればと企画中です。故郷をよく知り、愛せるような子どもが一人でも増えればと思います。

**（4）成人部 部長 加瀬 勝**

①講習会・講演会

年 1～2 回企画・実施。子どもの貧困、江戸川区の水害対策、認知症などをテーマに専門家による講演や、戦争体験や少年院での矯正官として関わった体験をテーマにした講演を企画しています。また地区内の小・中学校長の講演会も開催。

②日帰り研修旅行

2 月に実施。JAXA 筑波宇宙センター、JAL 羽田空港整備工場にて研修を実施。29 年度は地下大神殿「首都圏外郭放水路」の見学を企画中です。

**（5）広報部 部長 石水 義孝**

①広報紙「ふれあいの松江北」を年 2 回発行。各町会・自治会に配布し、地域そして各事業部の活動をお知らせしています。各町会・自治会の行事、地区管内の小・中学校の紹介も掲載。そして青少年の健全育成に関して、地区世論の喚起を促す記事も掲載しています。（発行部数 1 万部）

②地域まつり（5 月：中央地域まつり、10 月：中央・一之江ふるさとまつり）での写真撮影、アナウンス、取材、救護を担当しています。

### **3 今後の課題**

地区委員も高齢化しており、若い世代に地域活動の必要性や重要性を理解してもらえよう努めるとともに、新たな担い手の発掘に努力しています。

# 協力を求めて

青少年育成西小松川地区委員会

## 1 地域の現況

当地区の環境は、少子高齢化により世代交代がスムーズに行われなくなり、世帯としての継続性が失われ、また、新しく地域に移り住んできた住民も個人主義的な考えと過度な個人情報保護のため、従来からの住民とのコミュニケーションが難しい状況など、住民意識の変化により地域の連帯感が希薄になっています。

また、子どもにおいても学校選択制や多様な習い事により、地域で子どもの遊ぶ姿が見られなくなりました。各子ども会への加入者の激減と育成者の不足のため、行事や活動に影響が出ています。

青少年が安全で安心して多様な活動ができる地域、育てる地域力を高めるための育成活動を、各種団体（小中学校・PTA・子ども会・町会・長寿会など）と情報交換し、協力関係・調整をはかることこそ地区委員会の果たす役割であることを、地域住民に広く周知する努力が必要と考えています。



「継続は力なり」と50周年記念誌の表題から10年。熟年の会（五葉会）による登下校時の「見守り隊」や、各支部では協力団体によって実施されている夏休み夜間パトロール、年間目標である「あいさつ運動」は継続実施されています。しかし、従事協力者の高齢化と後継者不足により、平成26年に「区民まつり模擬店出店」、平成27年第40回で「新年歩け歩け大会」をやめることになりました。

## 2 現在の地区委員会の活動

西小松川地区委員会は、平成28年度に規約改正を行いました。規約改正は平成12年以来のことで、地区委員会の目的にあった活動の主なる会議と、行事の構成メンバーを再確認しました。

連絡調整委員会は、毎年「夏休み前の情報交換会（7月）」や「上期反省会（9月）」を開催し、地域諸団体との連携を図り、安全安心な育成活動の情報を交換し、共有しています。当地区委員会では、各町会に支部（5支部）を置き、より身近な情報交換や協力関係を作り、支部毎に行事の企画や活動内容は異なっていますが、子どもたちの安全安心な育成活動を推進しています。

事業実施委員会は、廃止した専門部に代わり、運営委員会







で決定した行事の実施に向け、各実行委員会を設け、協力者を募ります。

平成 27 年から始めた「たまご落としコンテスト」は、実行委員会を設け、子ども会と PTA の協力によって実施しています。限られた条件で、高いところから落しても割れない「たまごのカプセル」を作る発想力を競う行事で、創造力・モノづくりの心を育てるほか、親子共同作業もあって、ほほえましい行事となっています。

広報委員会は「夏休みのポスター」作りと、広報紙「ふるさと」を発行しています。

「夏休みのポスター」は地域の小中学生たちに、夏休みに向けて、現在の社会や家庭でより注意し、関心を持っていたきたい事項について明記したものです。学校の先生や警察署の方にもお話をお聞きして、この時期に合った内容を検討し、作成しています。家庭には学校や子ども会を通して配布し、また地域の町会に協力していただき、掲示板や回覧板などで地域の方々にも、夏休みの子どもたちの見守りをお願いしています。また、このポスターによって、地域全体が子どもたちの防犯に力を入れていることを示し、犯罪への抑止力になっていると考えています。

広報紙「ふるさと」においては、私たちの地区委員会を構成している 5 町会の各団体および地区委員会本体の活動をより多くの方に知っていただくために、年 2 回発行しています。今まで知らなかった様々な行事や活動を知って、より多くの子どもたちや家族の方々が地域の子どもの会やイベントに参加していただければと願い、参加された人の声を取り上げたり、これからの行事予定をお知らせしたりして新聞作りをしています。



また、他の団体の活動を知ることにより、各自の活動の参考にしていただければと思います。

子どもたちを取り巻く社会・環境は年々変化しています。「早寝・早起き・朝ごはん」という標語のもと、朝食の大切さを伝えたり、自転車事故が増加する中、新しい自転車の法令を知らせたり、様々な事例を取り上げて多くの家庭に問題提起していくのも「ふるさと」の重要な役割と捉えています。

これからも委員一同、より広くアンテナを張り、より多くの情報を集めて、子どもの健全育成に沿った、より身近な新聞作りを目指していきます。

### 3 今後の課題

地域諸団体の協力のもと、地域住民に「地区委員会」の存在を理解してもらい、青少年の健全育成に「地域力」の必要性和、意識向上のための対策を考えます。また、中学生ジュニアリーダーをはじめとした、将来、地域の核となる人材の育成や、青年層の行事参加等の人材確保にも取り組んでいきたいと考えます。

# 「地域の子どもたちの健やかな成長」を願って

青少年育成一之江地区委員会

平成 20 年から 29 年までの 10 年間は、一之江地区のめまぐるしい発展の中、地区委員会は心身ともに健全な青少年を育成することを目的に、関係諸団体のご支援ご協力を得て活動してきました。



## 1 地域の現況

この 10 年間の環境面の変化をみると、一之江駅西口側地区の区画整理に伴い、今まで消防車も入れないような狭い道路が広く整備され、緊急時の安心に繋がっています。

学校関係では、一之江小学校脇の道路が整備され安全な通学路に変わりました。一之江第二小学校では校庭が拡張され、一之江地区町会連合区民大運動会の会場として使われるようになりました。

また、松江第五中学校は、全面建て替えとなり平成 27 年度に完成しました。「中央・一之江ふるさとまつり」のメイン会場としてなど、一之江地区の拠点としての役割を担っています。

一之江第二小学校通学区域内に大規模マンションができ、次世代を担う子どもたちが増えました。地域のこれからの活力にもつながっていくと思います。

平成 18 年の新学期に、地区委員会が音頭をとり一之江小学校、一之江第二小学校で始まった下校時の見守り隊も、町会やくすのきクラブの有志の方々の協力のもと、今日まで継続しています。お蔭様で子どもたちも事故に遭うことなく、安全安心に下校ができています。

## 2 現在の地区委員会の活動

活動を地域にアピールする思いで、平成 27 年度にオレンジ色を基調に、黒の一之江地区委員会マーク入りのベストを作りました。また 28 年度にはオレンジ色の幟を作りました。これにより地区委員会行事ならびに「中央地域まつり」や「中央・一之江ふるさとまつり」の手伝いには、幟を掲げベストを着用して活動しました。

広報紙は、前年度までは、年 1 回発行の「一之江地区だより」と年 2 回発行の「Com」で地域へ情報発信してき



ましたが、平成 29 年度からは、より多くの情報を地域に発信するために「一之江地区だより」のみを年 3 回発行することにしました。

夏期パトロールでは、以前は地域に関わる学校の PTA や民生・児童委員の代表の方々にも参加していただき、昼と夜に分けて車で注意を呼びかけながらパトロールを行っていましたが、近年は諸事情もあって、地区委員だけで、夏休み中 3 回、夜 7 時より自転車に乗り一之江地域内のパトロールを行っています。



1月1日に初詣を兼ねて一之江小学校をスタートして、地域の神社等を周回して一之江小がゴールとなる約8kmを歩く「あるけあるけ大会」は、一之江地区委員会発足以来の長寿行事です。これは、各町会・自治会の協力をいただきながら実施しています。平成28年度よりオレンジ色のタオルを参加者に配布し、目印として身につけていただきました。これにより、参加者全員を把握することができ、事故もなく無事に終了することができています。



子どもを対象にした地域連携体験事業としては、平成13年からの「災害から子どもを守ろう」をキャッチフレーズに行っている「地域ぐるみ防災体験活動」があります。これは町会連合会をはじめ行政、消防署、消防団第8分団、小・中学校PTA、民生・児童委員、区子連一之江支部、共育プラザ「防災クラブ」等の地域諸団体の協力を得て、長年にわたり一之江第二小学校を会場に行ってきました。平成28年度からは、地域の災害時の避難場所としての、一之江小と一之江第二小を交互に会場とすることに決め、平成29年度は、16回目で初めて一之江小を会場に行いました。

また、「学校で遊ぼう」は、一之江第二小すくすくスクールの「秋のミニレクリエーション会」と共催で行っています。地区委員は、物作りや外遊びなどを担当しています。

研修活動は、区子連一之江支部との共催で、子ども会の育成者や地域の学校PTA、町会・自治会など地域の方々を対象にした講演会を年1回実施しています。平成29年2月2日には、いつ起きるか分からない災害について「地域における災害対策」をテーマで実施しました。

地区委員全体で行う主な協力事業としては、4月に共育プラザ一之江まつり「第6回春フェス」に協力しました。こちらには、第1回より協力しています。また、例年一之江小「すくすくスクール文化祭」や一之江第二小すくすくスクール「春季レクリエーション大会」に、物作りやゲーム担当などで協力しています。



### 3 今後の課題

平成18年度には52名いた委員も現在では36名となってしまいました。このことは委員の退任に伴う補充が適切に行われなかった結果と受け止めています。理由としては、地区委員会の活動が地域に十分浸透されていなかったため、補充の必要性が伝わっていなかったように思われます。

今後の課題としては、地区委員会が地域から求められている事業を確認し達成するためにも、その人的基盤である委員の資質を向上させていくために、次の事項を適時見直して地域に貢献していきたいと考えています。

- ①多様化する社会情勢の変化に対応する事業活動の模索（関係団体との情報交換）
- ②委員、育成者の資質を向上させる施策（講演会、研修会、社会見学会等）
- ③広報活動の充実
  - ・地区委員会広報紙（広報紙の内容、配布先への部数の見直し）
  - ・地区委員会読本Q&A（適時編集、新任地区委員・町会等への配布）



# 変わりゆく、時代と共に、活性化を目指す

青少年育成小岩中部地区委員会

## 1 地域の現況

小岩は古くから住む人が多い町ですが、ここ数年、人々が大きく入れ替わる時を迎えています。大きな敷地に一軒だった所が、整地、小分けされ、4、5軒の家が建ち、若い世帯が住む町に変化しています。しかし、こうして生まれ変わっても、子どもの絶対数は減ってきているのが現状です。また、地域に対する思いも薄くなってきているように思います。そうした中で、地区委員会の活動も、変化しています。以前のように、キャンプや、日帰り旅行は好まれなくなり、身近で、短時間で楽しめるものになっています。子どもたちだけが楽しむものではなく、親も共に準備から参加し、親子・地域が手をつないだ活動になってきています。

## 2 現在の地区委員会の活動

今まで、企画・開催していた行事も、時代と共に参加人数が減り、指導者も少なくなったため、変更や中止になったものもあります。今後、新しい行事等を取り入れるとするなら、現行の行事を1つ見直す必要があります。



毎年、夏休み期間中の毎週土曜日に危険・非行防止のパトロールを行っています。

繁華街と住宅街の2つのコースにわかれて一声運動、自転車の無灯火乗車の防止に重点を置き、無灯火乗車ゼロを目指し、キャンペーンを展開しています。



毎年恒例のドッジボール大会は、小岩中部地区内の少年少女の健全な育成とスポーツの普及を図ることを目的としています。

地区委員会・学校・青少年委員・スポーツ推進委員・PTAが協力し合い開催しています。

## <おもな活動>

|                     |      |
|---------------------|------|
| 小岩中部地域まつり（協力）       | 5月   |
| 夜間パトロール             | 7・8月 |
| 親子野外映画会             | 9月   |
| 小岩中部地区五町会区民大運動会（後援） | 9月   |
| 小岩中部支部避難所運営訓練（協力）   | 10月  |
| ドッジボール大会            | 11月  |
| 三校一園音楽会（後援）         | 11月  |
| 日帰り研修会              | 隔年開催 |
| 定例会後の委員研修           | 通年   |



## 3 今後の課題

地区委員会主催の年間行事は企画・立案を委員会、実施を地区委員が分担して活動しています。近年、小岩第一中学校の生徒ボランティアの活動、活躍が大きな力となっています。小学生、中学生、高校生、大人が一堂に会してプログラムされたイベントを計画してみるのも良いと考えています。青少年委員や、ジュニアリーダーの経験者に指導してもらえらるなら、協力し合うことで実現可能かもしれません。若い人たちにどんどんアイディアを出してもらい、判断等難しい局面は先輩方の経験豊かな頭脳をもってすれば可能です。楽しいことはみんなやりたいし、やらせてあげたいと思っています。

参加して楽しむ立場だった子どもたちが、年下の面倒を見てくれるようになっていきます。中学生に様々なイベントを経験してもらうことは、将来に向かって活躍できる場面を作ってあげることでもあります。

これから、行事や企画においては、

- 新しい特色を出す
- 色々な能力を持っている人たちを活かす
- 地域に埋もれている良い人材、良い兆候を見出す

これらのことを目標としていきます。地域のイベントに参加していれば、進学等で地元を離れてしまっても、戻ってきてくれる。長いスパンで見てあげようと思います。

# 北小岩地区

## 青少年育成北小岩地区委員会

### 1 地域の現況

北小岩は江戸川区の最北で、北は葛飾区、東は江戸川に接し、比較的静かな住宅地です。平成 29 年 4 月 1 日現在、人口 28,789 人、世帯数 14,461 世帯となっており、10 年前と比べ約 1,200 世帯増加しています。

北小岩地区には、中学校 1 校【小岩第三中学校（生徒数 570 名）】、小学校 3 校【上小岩小学校（児童数 395 名）、上小岩第二小学校（300 名）、中小岩小学校（361 名、ほかに、きこえ言葉の教室 64 名）】の計 4 校があり、地域で子どもたちを見守っています。

### 2 現在の地区委員会の活動

私たち北小岩地区委員会は、北小岩地区 6 町会・自治会、並びに地区内の 4 小・中学校 PTA から委員を選出し、その他に青少年委員・スポーツ推進委員・主任児童委員を交えて活動を行っています。現在行っている活動は以下のとおりです。

#### （1）全員研修会（7 月頃）… 研修部

地区委員自身の資質の向上を図るため、身の回りで起こっている話題を取り上げ、講師をお迎えしてご講演いただいています。

#### （2）野球大会（7 月頃）… 事業部

スポーツを通じて地域の親睦を図るとともに、青少年の健全育成を目的に、青年野球大会と少年野球大会を開催しています。少年野球大会は今年で第 55 回を迎えます。

#### （3）小・中学生宿泊体験キャンプ（7 月下旬）… 事業部

家族から離れて、学校・学年の違う子どもと交流しながら、集団生活に必要な分担意識・安全感覚・協調性を育てることを目標に、飯盒炊さん・キャンプファイアー・潮干狩などの体験をします。



#### （4）地域講演会（11 月頃）… 研修部

地域の方々を対象に、地域の教育力を高めるため、分野の専門家にご講演いただいています。

#### （5）たこづくり講習会（12 月中旬）、凧揚げ大会（1 月）… 事業部

すすくすスクールと連携して、江戸川凧の愛好会・蒲倉一郎会長に連だこづくりを教えていただいています。親子三代で参加される方もおり、1 月の凧揚げ大会では、毎年長く繋がる連だこを優雅に大空へ舞わせている光景も見られます。



#### (6) ドッジボール大会 (2 月) … 事業部

地区内の小学校 3 校から、低学年・高学年チームの参加を募って開催しています。毎回約 30 チーム、300 名を超える参加をいただいて、熱戦が繰り広げられます。

小岩第三中学校の有志生徒にも、大会運営のお手伝いで参加していただき、今ではなくてはならない存在となっています。

#### (7) 日帰り研修会 (2 月頃) … 研修部

地区委員自身の自己啓発とコミュニケーションの場として、研修会を行っています。

#### (8) 広報紙の発行 (3 月中旬) … 広報部

地区委員会の活動内容を正しく地域にお伝えするとともに、地域の問題などを紹介し、青少年の健全育成に役立てていただいています。地区内の 4 小・中学校には生徒数で配布し、6 町会・自治会には回覧形式で配布しています。

又、改選期には、地区委員の紹介を兼ねて「北小岩だより・臨時号」を発行しています。



### 3 今後の課題

この 10 年において社会情勢は目まぐるしく変わり、加速するグローバル化・出生率の低迷・子どもの貧困化など不安要素が多く、身近なところでは、スマートフォンの普及が子どもたちの生活に大きな影響を与えました。

また、家庭の教育力や子育て機能が低下してきているとの指摘もされています。核家族のもとで育った子どもが親世代となり、伝統的な子育て・家庭形成の知恵が伝承されなくなっている中、親の長時間労働や子育ての外部化などもあって、家族のふれあいの時間が減少するなど、長期にわたる構造的な問題が背景にあるといわれています。

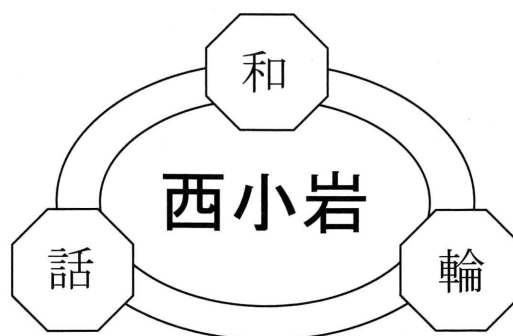
子どもの人間形成の原点は家庭にあるとの認識のもと、各家庭の自律的な取り組みはもとより、行政や地域社会が積極的に家庭・家族の絆の再生を支援していくことが必要です。しかし、個人主義の浸透により他人の関与を歓迎せず、自分の子どもを他人と交流させることに抵抗が増えている現状があります。

それに加えて、年々増加する外国人家庭とのコミュニケーションの取り方など、私ども地区委員会としての対応も、今一度見直す時期にきていると痛感します。伝統を守り伝えること、時代の流れに沿った活動をすること、この二点をうまく混ぜて形にすることがこれからの課題と考えます。



# 青少年育成西小岩地区委員会

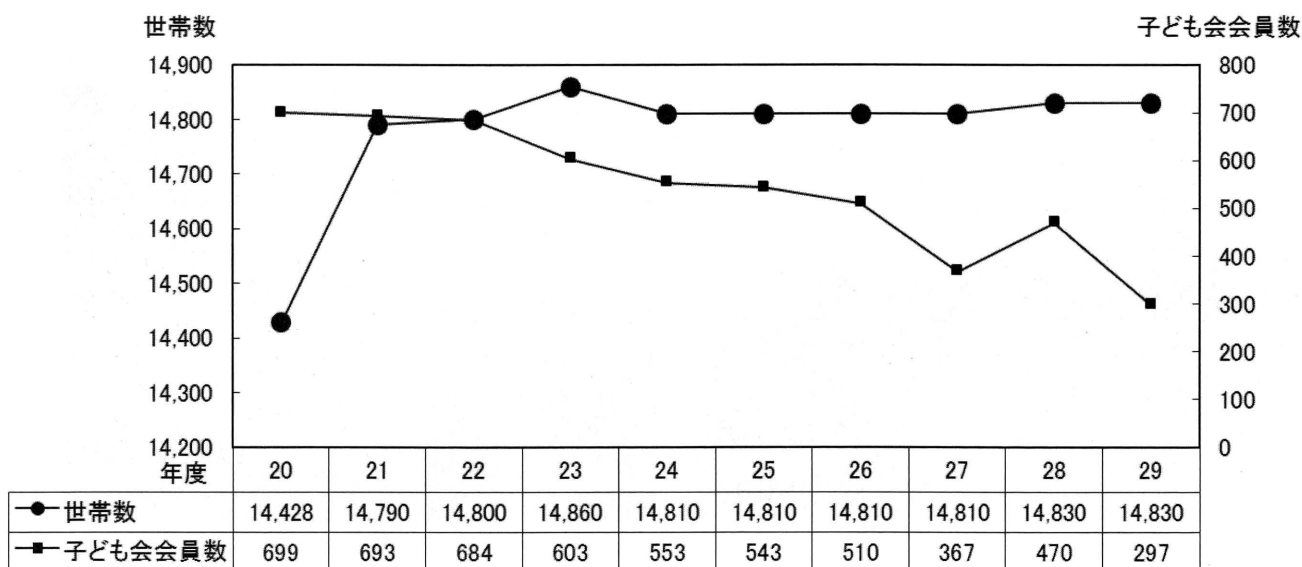
西小岩地区委員会は、「にしこいわ 地域のふれあい」を原点として、地域社会の「和・輪・話」を軸に地区委員一人ひとりが、各部会活動を通して青少年育成に携わり、貢献しています。



## 1 地域の現況

西小岩地区委員会は 10 町会・自治会で構成されており、世帯数は下表にあるとおり、平成 20 年の 14,428 世帯に対して、平成 29 年には 14,830 世帯と 402 世帯の増加となりました。

逆に子ども会会員数は、平成 20 年の 699 人に対し、平成 29 年には 297 人と大幅な減少となっています。



## 2 現在の地区委員会の活動

### (1) 企画部

企画部は、各町会・自治会長、スポーツ推進委員、青少年委員及び各部長により構成され、委員会の年間計画・進行管理に関し、地区委員会の全体を把握します。また、2 名の副委員長は担当する各部会に出席し、その部会の活動をサポートしています。

### (2) 広報部

広報部が年 1 回発行している広報紙「にしこいわ 地域のふれあい」は、昭和 55 年に創刊され、本年で第 38 号となります。どのようにしたら地域の方々に興味を持ち、読んでいただけるかを常に考え取り組んでいます。見やすく、読みやすくするため、写真を多く取り入れる等の工夫をしています。そして親と子の対話が少なくなっていると言われていた今だからこそ、地域の広報紙は「共通の話題で親子が楽しめる」に焦点を置き、これからも活動していきます。

### （３）研修部

研修部は、地区の小・中学校長、10 町会・自治会の地区委員の計 18 名で構成されています。

研修会や日帰り研修などを通じて、子どもたちを守るための知識を深めていくよう努力しています。

今年の研修会は、東京学芸大学特任教授である成田喜一郎先生を講師に迎え「つながり・つりあい・つつみこみ・つづけることの意味」というテーマで開催しました。子どもたちを取り巻く環境が日々変化しており、地域の方たちも諸問題について関心を持っているため、研修会には毎年多くの方が参加しています。

また、「地区委員の啓発と親睦」を目的にした日帰り研修を、平成 28 年度は「勝浦海中展望塔」の見学をメインに 41 名の参加者で行いました。



### （４）青年団体育成部

青年団体育成部は、青年男女ソフトボール大会を中心に、19 名の青年団体育成部員の力を結集して運営されています。

ソフトボール大会は 10 年間で、晴れ、雨、曇り、強風と様々な天候に出会いましたが、毎回多くのチームが参加し、熱気により天候など関係ないといった盛り上がりを見せています。

大会中は参加者等の交流、大会が終わった後は祝勝会・反省会が開かれ、地域の方々の疎通に役立っている大会になっています。

### （５）少年団体育成部

少年団体育成部では、地域の子どもたちに楽しんでもらえるよう行事に力を入れており、平成 29 年度は親子映画会とドッジビー大会を行いました。

親子映画会は平成 28 年から行われ、今年で 2 回目ですが多くの子どもたちに参加してもらいました。

上映する作品も、なるべく子どもも大人も楽しめる、評判が高い映画を選出するよう心がけています。

ドッジビー大会は柔らかいディスクを使うため、小学生の低学年から参加できる大会であり、毎年多くの子どもたちが参加する人気の高い行事になっています。



## 3 今後の課題

西小岩地区委員会は、西小岩まつりや地区運動会など様々な行事を行い、地域活動を精力的に展開してきました。そのため年代を問わず互いが協力し、いろいろなことに興味を持ってもらえるような地域になっていると思います。

健全な地域社会の実現に向け、子どもの育成はとても大切になります。そのため子どもが思い切り遊べる場をどれだけ提供できるかが重要になってくると思います。今後は子どもを中心としたビジョンを掲げ、皆で知恵を出しあい、子どもの成長を見守っていきたいと思います。

# 子どもたちを育てる地域の力

## 青少年育成南小岩地区委員会

### 1 地域の現況

南小岩地区委員会は、8つの町会・自治会（一南自治会・扇子田自治会・河原田町会・南小岩二丁目南町会・東小岩一丁目東町会・昭栄自治会・江戸川北東自治会・異親和会）があり、各町会自治会から推薦された地区委員・青少年委員・スポーツ推進委員の35名が各部に所属して活動しています。また、地区委員会の管内には、小岩第二中学校・南小岩小学校・南小岩第二小学校があり、3校と連携して青少年の健全育成に取り組んでいます。学区域の関係で管外の小学校（篠崎第五小学校・東小岩小学校）とも関わっています。

この10年間で、子どもたちの遊びや生活は大きく変わり、多種多様な情報が子どもたちにも届くようになりました。子ども会参加の減少や役員のなり手がいないなどの諸事情もあり、区子連南小岩支部の加盟団体は13団体から、現在2団体と激減しました。子ども会活動の減衰・地域行事への参加の減少もあり、人とのかかわりが希薄になってしまったところもあります。

そこで、地区委員会行事を通して、地域の大人と子どもたちがふれあい、かかわりを持てるようにと、平成28年に行事の内容を再検討しました。地区委員会行事が一番の楽しみとまではいきませんが、子どもたちの参加は少しずつ増えています。世代を超えて一緒に活動できるのが、地域の良いところだと思います。

南小岩地区委員会では、「子どもたちにとって大切なことは何か」「地区委員会に必要なこと、求められていることは何か」を考えながら、企画・活動しています。次世代を担っていく子どもたちの成長を願い、子どもたちを地域の力で育てていこうと、一致団結して活動しています。



南小岩地区合同ラジオ体操

### 2 現在の地区委員会の活動

#### （1）南小岩地区親睦ボウリング大会（6月）

地区委員同士の親睦を深めるため、年間行事の最初に実施しています。

#### （2）親子映画会（7月）

平成28年度から実施いたしました。映画技師でもある海老根委員長が、映写機とフィルムを駆使して上映会を行っております。DVDが主体となった昨今、16mmで映画を見る体験は、子どもたちにとって、とても貴重な体験であると思います。



南小岩地区ドッチビー大会

### (3) 南小岩地区合同ラジオ体操 (7 月)

平成 26 年度までは、江戸川クリーン作戦と同時開催をしていました。今は単独での開催となっています。参加人数は 400 人を超え、幼児から熟年者まで幅広い年齢層の方々が一堂に集い、早朝より元気に体を動かしています。

### (4) 南小岩地区グラウンドゴルフ大会 (大人の部、子どもの部) (9 月)

平成 28 年度から、子どもの部を同日開催しています。子どもの部の評判は上々で、2 回目となる本年は、前回より多くの子どもたちに参加してもらいました。

### (5) 南小岩地区ドッジビー大会 (12 月)

平成 22 年度から子どもを対象に開催しています。

### (6) レクリエーション大会 [歩け歩け大会] (3 月)

より多くの子どもたちに参加してもらえるように、平成 27 年度にレクリエーション大会に名称を変更しました。平成 28 年度に 1 回目を開催予定となっていたましたが、雨天中止となってしまいました。



南小岩地区グラウンドゴルフ大会

### (7) 南小岩地区ボウリング大会 (3 月)

町会対抗のチーム順位と、参加者各々で個人順位を競っています。南小岩地区グラウンドゴルフ大会に並び、南小岩地区では歴史のある大会 (平成 29 年度で第 42 回) となっています。

## 3 今後の課題

平成 28 年度から地区委員長を引き受け、1 年半が経過しました。80 歳を過ぎた私には、地区委員長は大変な役職であると思いました。これから先、若い後継者を育成していくことは大事な仕事だと強く感じております。

さて、地区委員会の活動は、若い親子を中心とした行事を増やし、活性化をはかり、活動内容を若返らせていくことを目標として取り組みました。

『現在の地区委員会の活動』を読んでいただければわかることだと思いますが、私が地区委員長となった平成 28 年度に、親子映画会、グラウンドゴルフ大会 (子どもの部) の 2 つの子ども向けの行事を新たに開催しました。親子映画会の 1 回目

(平成 28 年度) は 50 人前後の参加でしたが、2 回目 (平成 29 年度) は 100 人を超える参加者があり、評判もよく嬉しい結果となりました。しかし、これから先も地域全体を盛り上げる体制が実現できるか心配です。

若い人達に託したいと考えておりますが、地区委員の高齢化により、今の状況ではとても難しいのが本音です。これを打開するには、地域と行政が一体となり、新しく若い後継者を育て、多くの方が前向きに地域活動に関われるような体制を作っていけるよう、頑張っていきたいと思ひます。



親子映画会

青少年育成南小岩地区委員会 委員長 海老根 衛



# 下小岩地区委員会

青少年育成下小岩地区委員会

## 1 地域の現況

当委員会は6つの町会・自治会を母体とし、下小岩小学校・下小岩第二小学校・小岩第五中学校とそれぞれのPTA、区子連下小岩支部、青少年委員、スポーツ推進委員、民生・児童委員、主任児童委員から成る68名の委員で構成されています。

JR小岩駅に近く、賑やかではありますが、喧騒さのない昔からの商店街、それを挟んだ住宅街の中で、諸先輩が築き上げた育成者学習活動を継続し、日々学びながら、子どもたちにとって下小岩が「ふるさと」と思えるような環境・場面作りをしたいと活動しています。

## 2 現在の地区委員会の活動

### (1) 研修部

#### ①青少年育成地域懇談の集い

毎年7月に開催されます、学校・町会自治会・警察等の代表者を交えての集いです。

49回を数えた平成29年度も、それぞれの立場からの貴重な意見・情報を共有することができ、出席者一同で夏休み前の連絡調整を行うことができました。引き続きの講演会では、江戸川区文化共育部長の石塚幸治氏による、オリンピック・パラリンピックに向けた江戸川区の取り組み、そして私達はそのことに向けてどのような貢献ができるのか、というテーマで有意義なお話を聴くことができました。

#### ②育成者セミナー

今年33回を数える育成者学習活動です。

毎年地区内校長先生からは必ず講演をいただいています。その他、中里前区長を始め、時の教育長・社会教育主事の方々、また大学教授・弁護士・警察・NPO法人の方々から、子どもを取り巻く状況・子育てのヒントなど多くのことを学びました。

10年前の24回の折には、聖路加病院の日野原重明先生の「いのちの授業」を受ける機会を得た下小岩小学校担任教諭から、その経緯の報告をいただきました。「いのちの授業」そのものは勿論素晴らしいものです。そして日野原先生に直接面会へ行き、この授業を実現させた子どもたちの思い切った行動、それに答えてくださった今は亡き先生、そのやりとりなどは子どもたちが大人になった今も、きっと心に残る場面のひとつになっていることでしょう。

### (2) 環境部

#### ①夏休みパトロール

部員を中心として2日間、地区内の夜間パトロールを行っています。昨年はGPSを利用したゲームのヒットがあり、スマートフォンを片手にモンスターを捕まえる人々が遅くまで歩き回っているという不思議な状況にも遭遇しました。

## ②ラジオ体操実態調査

夏休み中、地区内の4会場をまわり参加人数などを把握しています。子どもの参加が減る傾向があり、会場によっては10年前の半分になってしまったところもあります。

小学校の児童数が減少しているのも事実ですが、子どもたちへの声掛けをもっと行わなければならないと感じております。

## ③下小岩たんけん隊

子どもたちに下小岩の伝統・文化を知ってもらおうと昨年実施しました。地区内各ポイントのクイズに答えながらコースを回り、いろいろな発見があり地域を知る良い機会となりました。今年も新たなコースで実施計画中です。



## ④子ども防災体験

防災クイズに答えたり災害用非常食を試食したり、煙体験・消火器訓練など消防署の協力をいただきながら、子どもに合わせた防災体験を開催しております。

# (3) 事業部

## ①学校であそぼう

会場となる小学校から多様な協力をいただき、下小岩地区恒例の秋の行事となり、今年で15回目の開催となりました。昔あそびでは大人も童心に戻ってコマを回し、青少年委員指導の手作りあそびでは毎回新しい作品を手がけ、それを使って楽しく競技することもできます。父親や指導員など若い男性の参加が多い行事で、学校を会場とするとPTAの力が大きくなり、その存在が頼もしく思えます。

## ②ウォーキング大会

マラソン大会から形を変えたウォーキング大会、今年度で16回を数えることになりました。毎回150名前後の参加をいただき、幼児からシニアまで、それぞれに合わせたコースを選び、寒中の一大イベントとして定着しました。



# (4) 広報部

## ①広報紙の発行

下小岩地区委員会だよりを発行しています。創刊は昭和49年3月25日、平成29年9月20日には101号を発刊しました。部員が取材と称し、各行事に可能な限り参加し、実際に体験し、写真を撮り作文をし、形を作っています。

# 3 今後の課題

JR 小岩駅周辺は今、「100年栄えるまちづくり」という方針のもと、市街地再開発事業が進められています。

駅南口フラワーロードには昨年29階の建物が完成しました。これから10階が1棟、30階を越す高さ100mの建物が2棟と、次々に建設されることになります。

私達の下小岩地域は、地区委員会を中心とした豊かな地域資源を持っています。再開発事業によって得られる災害に強いゆとりのある街並み、そして新しく下小岩の住人となられる方々を加えて、ふれあいのある、安全・安心で楽しい下小岩を守り続けていくことが、私達地区委員の役目ではないでしょうか。

# 花のまち 笑顔のまち

青少年育成鹿本地区委員会

## 1 地域の現況

鹿本地区は花が多いところで知られています。毎年5月には「花の祭典」が開催されており、また、朝顔も、この地区の花園から出荷されています。街路樹も多く、四季色とりどりの花を見ることができます。また、旧農業用水の代わりに作られた親水緑道も多くあり、どこを歩いても花があり、歩く人達の目を楽しませてくれています。

鹿本地区には鹿本、鹿骨、鹿骨東、松本、本一色、上一色南の6つの小学校と、鹿本、鹿骨、小岩第五、上一色の4つの中学校があり、各小学校には「すくすくスクール」があり子どもたちを支援しています。また、鹿本小学校はこの10年の間に創立100周年記念を迎えました。

町会・自治会は鹿骨一、二、三、四、五丁目、西篠崎、本一色、興宮、松本の9町会・自治会で構成され、町会・自治会の中には、各々子ども会があり、地域でも子どもたちを見守っています。

鹿本地区委員会は、この10年で第7代目村山保男委員長、第8代目市川省三委員長、そして現在、9代目村山寿太郎委員長へと引き継がれています。

地区委員会は「健全育成部」「広報部」「コミュニティ・スポーツ部」の3つの専門部で構成され、地域の子どもたちが元気で健やかに育つように、あいさつ運動、地域運動会、地域セミナー等の活動をしています。

## 2 現在の地区委員会の活動

### (1) 健全育成部

健全育成部は学校、PTA、町会・自治会、各種団体から推薦された者が部員となり、研修や講演会などの文化的教育部門を引き受けています。

健全育成部の活動として、「子どもを中心とした健全育成事業」に力を入れています。鹿本地区管内の小学生を対象に、子ども未来館の職員の皆様の協力を得て、鹿骨親水緑道（流堀親水はなのみち）にて、川の生きものの観察会を毎年実施しています。年々参加者も増えており、夏の行事として定着してきました。



— 鹿本地域セミナー —  
三遊亭究斗さんによる講演会  
(平成27年2月9日)



— 子どもを中心とした健全育成事業 —  
(平成29年7月22日)

## （２）広報部

広報部の活動は、広報「鹿本」の発行です。昭和 53 年創刊号以来、発行を重ね、平成 29 年度までに 77 号を数えます。現在 3 月と 10 月の年 2 回発行しています。内容としては地区委員会の行事報告・予定や地域の行事の紹介、主に子ども達の活躍・話題を中心に上げています。親しみやすい広報誌を目指し、地区委員会と地域との架け橋となっています。



－ 広報鹿本 77 号 －

## （３）コミュニティ・スポーツ部

コミュニティ・スポーツ部は、「ふれあい運動会」を中心としたスポーツ的部門を担当しています。「スポーツ健康講座」「グラウンド・ゴルフ大会」の実施や各種講演会の周知、地区委員相互の親睦を図る事業の実施をしています。地域の運動会は、昭和 63 年よりミニ運動会として開始され、その後現在の「ふれあい運動会」となり、今年で 30 回を迎え、競争にとらわれることなく、楽しくふれあいの意識高揚を図り、年々規模が拡大し、地域になくてはならない行事となっています。



－ 鹿本地区ふれあい運動会 －

（平成 29 年 10 月 1 日）

「グラウンド・ゴルフ大会」は、地域にグラウンド・ゴルフを紹介し、地域への定着に努め、江戸川区グラウンド・ゴルフ協会設立の基礎をつくりました。

## （４）あいさつ運動

地域教育力向上を目指し、社会の根本となる「あいさつ」を実践していこうと「あいさつ運動」がスタートし（昭和 61 年）、おはようから始まり、叱る、ほめる等いろいろあるあたたかい心の通い合うあいさつを地道に推進しています。

これまでに「ほほえんで あいさつかわそう さわやかに」という標語を地域に浸透させるべく、あいさつ標語・プレート・ステッカーを町会・自治会に配布しました。毎年 4 月には鹿本地区管内の小中学校を巡り、あいさつ運動のポスターを、特に新小学 1 年生には標語ホルダーを配布し現在に至っています。また、各行事でもあいさつ運動の啓発を進めています。

## 3 今後の課題

相変わらず世間の犯罪は過酷で後を絶ちません。青少年の健全育成、あるいはこれらの犯罪から青少年を守るには、家庭・地域・学校の連携が大切だと思われます。

大人も子どもも成長し、共に良い地域にしていく為に、それらに関するセミナー・講演会・行事が今まで以上に広く地域のものになっていくようにしたいと思います。そして、管内の行事に小・中学校の協力・参加を積極的に呼びかけて、共にふれ合う機会を多くしていきたいと思っています。



# 子どもたちの笑顔の花咲く 京葉地区

青少年育成京葉地区委員会

## 1 地域の現況

京葉地区は、新中川と江戸川に挟まれた、主に京葉道路北側の一帯です。地区内に、地下鉄篠崎駅、都立篠崎公園、篠崎ポニーランドを有し、江戸川河川敷では様々なスポーツを楽しめます。また、夏には花火大会、秋には区民まつりで賑わう、とても恵まれた地域です。

平成 20 年には篠崎駅西側に篠崎文化プラザがオープンしました。明るくきれいな図書館では子どもたちが熱心に勉強し、人生大学では熟年者の皆さんが中心となって、街づくりや社会貢献について学びます。地域の歴史や文化を紹介する展示コーナーも好評です。平成 22 年、文化プラザに移転した篠崎図書館の跡地に子ども未来館ができました。子ども向けの講座や教室で、実験・観察や科学工作を体験できます。子ども図書館もあり、いつも多くの子どもたちで賑わっています。

地区では子ども会活動が盛んです。8つの町会・自治会にそれぞれ子ども会があり、江戸川区子ども会連合会(区子連)京葉支部としても活動しています。区民まつりや花の祭典に模擬店を出し、売上を活動資金としています。ジュニアリーダー講習会には毎回多くの参加者があり、次代の指導者が続々と育ってきています。



卓球大会

## 2 現在の地区委員会の活動

### (1) 全体行事

毎年秋に実施している運動会、「ふれあいスポーツ大会」は平成 29 年で第 30 回を迎えました。常に種目や進め方を見直し、より安全で楽しめる行事になるよう工夫しています。リレー等の町会・自治会対抗種目は応援にも熱が入り、大変盛り上がります。



ふれあいスポーツ大会

12 月には「自転車盗ゼロ作戦」を実施します。中学生を中心に「盗難自転車なくし隊」を結成し、区域内をパトロールしながら、篠崎駅前を中心に啓蒙活動を行います。

## (2) 総務部

全体行事の進行・取りまとめを行い、善行少年少女表彰式や研修会を主催します。また、コンビニエンスストア等の雑誌・書籍の売り場を見て回り、成人向けの図書が子どもたちの目に触れづらくなるよう、配慮をお願いする活動もしています。

## (3) 広報部

毎年春・秋に広報紙「京葉地区だより」を制作し、地区委員会活動をはじめ、町会・自治会・子ども会・小中学校・すくすくスクールの行事等を紹介しています。平成 29 年度に第 92 号まで発行しました。また、地区委員会の PR として小学 1 年生にあいさつ標語の定規を配り、ふれあいスポーツ大会やドッジボール大会であいさつ運動を行っています。

## (4) スポーツレクリエーション部

ふれあいスポーツ大会で、審判・誘導・スタートといった中心的役割を担っています。毎年 9 月に卓球大会、2 月にふれあいスケートを主催します。また、区子連京葉支部が 3 月に開催するドッジボール大会で、審判や記録等の協力を行っています。



ふれあいスケート

# 3 今後の課題

地区内には、新しく建売住宅やマンションが建設され若い世帯が転入してくる地域と、古くからの住人が多い地域があり、町会・自治会により子どもの数に開きがあります。今後も差が広がっていくことでしょう。運動会では子どもの競技の参加者を均等にするため、町会・自治会間で参加枠を融通しあっています。平成 29 年度からはそういった調整をやりやすくするため、従来は抽選で決めていた紅組・白組を固定することになりました。地区全体で一丸となって子どもたちを育てていくため、今後もこのような工夫をしていくことが重要と考えます。

また、残念ながらこの地区は区内でも自転車の盗難が多いようです。子どもたちが気軽に罪を犯し、そこから道を踏み外さないよう、小さな犯罪でも未然に防ぐ努力が大切です。「自転車盗ゼロ作戦」では、短時間でも、自宅であっても、自転車をとめたら必ずカギをかけるよう呼びかけています。



研修旅行

# のびゆく瑞江

青少年育成瑞江地区委員会

## 1 地域の現況

瑞江地区は、江戸川区の東部に位置し、東部区民館、都営新宿線瑞江駅を中心とした地域です。この10年間で区画整理事業の街づくりもほぼ完了して、見違える様な街並みになりました。

そんな瑞江地区にある瑞江地区委員会を構成する諸団体は、12の町会・自治会、10の小中学校、その他以下の団体です。

### (1) 瑞江地区委員会を構成する諸団体

#### ①町会・自治会

椿町会、椿親和会、椿東町会、今井町会、下鎌田町会、瑞江町会、西瑞江三丁目町会、江戸川一丁目町会、江戸川二丁目町会、江戸川二丁目都住自治会、谷河内南町会、椿住宅自治会

#### ②小・中学校・PTA

瑞江小学校、春江小学校、下鎌田小学校、下鎌田東小学校、下鎌田西小学校、江戸川小学校、瑞江中学校、瑞江第二中学校、瑞江第三中学校、春江中学校

#### ③他諸団体

民生・児童委員協議会、保護司会、スポーツ推進委員会、青少年委員会、区子連瑞江支部、少年野球連盟

## 2 現在の地区委員会の活動

瑞江地区委員会は4つの専門部からなっています。

### 平成29年度 青少年育成瑞江地区委員会 事業計画

| 担当  | 事業名       | 会場     | 備考                                     |
|-----|-----------|--------|--|
| 総務部 | 総会        | 区民館集会室 | 基本計画・予算・決算・人事の協議                       |
|     | 全体会       | 区民館ホール | 事業執行状況等の連絡、情報交換                        |
|     | 地域連絡協議会   | 区民館集会室 | 地域・学校・PTA間で青少年の健全育成に関する情報交換・対策の話し合いを行う |
| 広報部 | 広報紙       | 瑞江地区対象 | 地区委員会並びに地域活動等を紹介第70・71号<br>約17,900部    |
|     | ポスター発行    | 瑞江地区対象 | あいさつ運動の“標語ポスター”を作成                     |
|     | 夏期夜間パトロール | 瑞江地区全域 | 夏休み期間中の青少年の非行防止パトロール                   |

| 担当        | 事業名             | 会場                | 備考                               |
|-----------|-----------------|-------------------|----------------------------------|
| 育成<br>事業部 | 少年野球大会          | 水辺のスポーツ<br>ガーデン 外 | 瑞江地区の少年野球連盟のチームによる大会<br>＜第 51 回＞ |
|           | ネオホッケー大会        | 下鎌田小学校<br>下鎌田西小学校 | 瑞江地区の小学生を対象に実施<br>＜第 29 回＞       |
| 研修部       | 講演会             | 区民館集会室            | 育成者を対象に健全育成に関する講演を行う             |
|           | 研修旅行            | 未 定               | 主に地区委員を対象に実施                     |
| 全 体       | 安全安心<br>まちづくり大会 | 瑞江第三中学校           | 大会中、自転車盗ゼロ作戦参加の中学生の安全確保に<br>協力   |



ネオホッケー大会



講習会（※隔年実施）



少年野球大会

### 3 今後の課題

瑞江地区も、他地区同様少子高齢化が進み、育成事業部が開催する少年野球大会が毎年のように選手不足で、試合がままならなくなっています。なんとかジュニアの部の選手を少年の部に参加させて成立している状況が続いている現状です。

小学校・中学校はもとより、各団体と連携を取りながら、地域活動をより活発にしていきたいと思えます。



# 明るい篠崎

青少年育成篠崎地区委員会

## 1 地域の現況

江戸川と、京葉道路、都営新宿線が走り、都営東篠崎団地、篠崎第三小学校の建て替え工事が進み、江戸川を渡った京葉道路市川インターでは 29 年度中に東京外かく環状道路との接続工事が終了しました。

交通の便が格段と向上する地域にあり、13 町会・自治会、4 小学校、2 中学校があり、児童生徒数が 3,500 人を越える大変にぎやかな地域構成です。

また、地区委員会に係る行事においては、本年 40 回目の区民運動会、41 回目の東部地域祭、37 回目の小学生ドッジボール大会、そして 46 回を数える卓球大会など、地域と連携した活動が盛んに行われています。

地区委員会の今後の課題として、委員の高齢化に伴い、PTA や子ども会との連携の中、今後につながる人材の発掘に力を入れていきたいと感じています。

## 2 現在の地区委員会の活動

### (1) 総務部

総務部の主な活動は、地区委員会の総会、全体親睦会、新年顔合わせ会など各種の集会を開催し、地域の方々との連携と親睦を図ることです。

また、委員会だよりの「明るい篠崎」を年 1 回発行しています。

「明るい篠崎」には、地域行事や各事業部の活動報告、地域で青少年育成に関わる方や顕彰者のお名前を掲載しています。

### (2) 連絡調整部



連絡調整部では、地域関係者と学校関係者が一堂に会し、その年々で話題となっている身近な問題をテーマに、小学校・中学校のグループに分かれて、地域の子どもたちに関する情報を交換しています。今年のテーマは「スマホのマナーと不審者対策」ですが、毎年活発で有意義な話し合いが行われています。

話し合いの内容は、後日、関係機関各所に配布し、共有化を図っています。

### (3) 事業部

スポーツをとおり、子どもたちの健全なる心身育成を目的とし活動しています。

#### ①卓球大会

今年で第 46 回を迎えた伝統の大会です。

今年は小学生の部 12 チーム、中学生・育成者の部 3 チームが参加し、新たに卓球を始める子どもたちも毎年増え続



けています。

開催にあたり卓球連盟、地域スポーツ推進員の方々のご協力も大きな力となっています。

第 45 回の記念大会では元日本代表選手を招聘し、エキシビジョンマッチを行いました。一流選手のプレーに子どもも大人も感動し、心に残る大会となりました。

## ②ドッジボール大会

今年で第 37 回を迎え、卓球大会と同様に長く続く人気の大会です。

毎年多くの小学生が参加し、男子・女子高学年の部、男子・女子低学年の部の 4 つのカテゴリーに分かれ、優勝トロフィーに向って熱い戦いが繰り広げられます。

今年も各小学校の校長先生が応援に駆け付け、子どもたち・保護者の熱い声援と相まって、大変盛り上がった大会となりました。

両大会ともスポーツの素晴らしさを体験すると共に、スポーツマンシップと礼儀を重視し指導をしています。



## ③レクリエーションスポーツを楽しむ集い

新しいレクリエーションやスポーツを地域に紹介し、普及していくことを目的としています。

学校などでは普段触れる事のない種目を実施し、親子・地域・老若男女で参加しながら楽しい時間を過ごしています。

近年ではベーゴマ・けん玉などの昭和の昔遊びも人気です。

## (4) 研修部

研修部では「地域の友好・地域づくり」を目標に、研修部員が区内で行われる各種講演会や研修会に参加し、そこで得た情報や学んだ内容を地域に発信しています。

また、地域の方々の見識を磨き・深める一助として、講師の先生をお招きしての研修会を実施し、年度末には、地域役員の親睦と反省会を兼ねた一日研修・一泊研修(隔年で実施)を企画・運営しています。

これらの活動を通して、更に充実した研修部を目指していきたいと思っています。

## 3 今後の課題

地区委員会では、活動を広く認知して頂くため、沢山の有意義な活動を行っていると感じています。

これからも地域の子どもたちが元気に明るく住み良い地域を目指して活動を行っていきます。

より多くの皆さんに活動を認知して頂く努力をし、一緒に活動できるメンバーが増える事を願っています。

# ふ れ あ い

青少年育成葛西地区委員会

## 1 地域の現状

葛西地区委員会では、葛西の中でも古くからこの地に住んでいる人が多い、二之江地区と長島・桑川地区を範囲としています。活動の中核は、16の町会・自治会と小学校5校、中学校4校及び各PTA、子ども会が担っています。

地域の中心には環状7号線が南北に走り、東には旧江戸川、東西には桜の名所としても知られている新川が流れています。また、毎年夏に開催される「古川まつり」の会場にもなる古川親水公園や、かつては江戸川と中川を結ぶ水上交通路として栄えた「長島川」が水と緑と彫刻溢れる「葛西親水四季の道」に生まれ変わり、地域の人々の憩いの場として愛されています。

このような地域柄、昔から住む人たちが当地区委員会の活動の中心になっていますが、先を見据え、次の世代へ襷を繋ごうとしている段階でもあります。

## 2 現在の地区委員会の活動

葛西地区委員会では、年間を通して別表に記載した活動を行っています。

スポレク部主催の町会・自治会対抗ソフトボール大会は、平成29年度の大会で48回を数えます。女子バレーボール大会は37回です。また、バレーボールの経験がなくても、年齢に関係なく誰でも楽しくプレーできる、ソフトバレーボールを取り入れて17回目を迎えます。町会・自治会対抗卓球大会は35回目を迎えます。



浸水扉の脱出訓練の様子

研修部では、その時に話題となっている事柄などについて講演会や研修会を開催しています。子どもたちの成長のために、健康で豊かな生活と睡眠のために、平成28年度は「眠りの大切さ」「朝ごはんの大切さと偏食予防」講習会を実施しました。さらにその前は「救命講習会」「ネット・ケータイとのかしこい付き合い」などのテーマで、専門の講師をお招きしたりビデオ鑑賞を交えたりして研修をしてきました。なお体験型研修会では毎年1月に墨田区の『本所防災館』と江東区有明の『そなエリア東京』に隔

年で見学と体験研修を実施し、防災への備えや、実際の初期消火、煙からの脱出訓練、浸水扉の脱出訓練など身につく体験学習を行いました。

青少年部主催行事では、夏休み夜間パトロールや工作教室、ポイントラリー、ふれあいドッジビー大会、早朝親子スケートの集いをメインとして活動しており、いずれも親子で多くの方にご参加いただいています。

広報部では、8月と2月の年2回、広報紙を発行しています。平成26年より紙面をB4タイプからA3

二つ折タイプに広げました。また平成 29 年度からはカラー刷りで皆さんに見やすく親しみやすいように改訂しました。また総会で決定した事業計画を活動予定表として見やすく掲載したところ、大変ご好評いただきました。

なおドッジボール大会については、平成 26 年度からは江戸川区が推奨しているニュースポーツ、『ドッジビー大会』が代わって計画され、講習会を実施後、第 1 回大会が行われました。平成 29 年度で 2 回目の大会になります。より多くの子どもたちに行事に参加してもらい、仲間づくりやチームワークを学び、また地域の大人との交流を深める場を提供できればと思います。



ふれあいドッジビー大会

#### 【年間行事一覧】

| 行事内容               | 実施時期  | 行事内容                     | 実施時期               |
|--------------------|-------|--------------------------|--------------------|
| 町会・自治会対抗ソフトボール大会   | 4 月   | 早朝親子スケートの集い              | 2 月                |
| 夏休み夜間パトロール         | 7・8 月 | ソフトバレーボール大会              | 2 月                |
| 夏休み工作教室            | 8 月   | ふれあいドッジビー大会              | 2 月                |
| 町会・自治会対抗女子バレーボール大会 | 8 月   | 日帰り研修旅行                  | 3 月                |
| 町会・自治会対抗卓球大会       | 8 月   | 講演会・体験型研修会等              | 年 3 回              |
| 葛西まつり模擬店出店         | 10 月  | 自転車盗ゼロ作戦<br>(葛西三地区委員会合同) | 年 1 回              |
| ポイントラリー            | 12 月  | 広報誌『ふれあい』発行              | 8 月(夏号)<br>2 月(冬号) |

### 3 今後の課題

葛西地区委員会では、活動の趣旨に基づき「仲間づくりや親子がふれあえる行事」「子どもたちの成長に必要な講演会」など青少年の健全育成に努めてきました。

しかしながら、地区委員会活動が各家庭や地域に十分に浸透している状況ではありません。

また、地区委員の構成については、新たな委員の参加不足や高齢化も課題となっています。

今後、地区委員会活動の成果を高め、活性化を図るために、各家庭や地域の皆さんに一層理解を深めていただく取り組みや、新たな地区委員の参加者を拡大する取り組みが求められています。

このことを踏まえ、関係機関・団体・地域や家庭の皆さんから幅広く活動に対する提案や意見を聞き、地域の中で幅広い育成活動を実践し、活動のネットワークを広げ、子どもたちの育ちを支える活動を継続していきたいと思っています。



早朝親子スケートの集い

# 健全育成を地域愛で見守る地区委員会

青少年育成葛西第一地区委員会

## 1 地域の現況

葛西第一地区委員会は、南に東京メトロ東西線西葛西駅、北は都営新宿線船堀駅があり、交通の便に恵まれており、高層マンション等が建設され多国籍の人達を始め、年々人口増加し生活環境が変貌しました。45の町会・自治会で組織されている船堀地区自治連絡協議会・宇喜田小島地区自治連絡協議会を中軸とし、年間の行事は地区委員を中心に、小・中・高生のボランティア活動を得て、13校の区立小中学校の子どもたち対象の大会や、町会・自治会、PTAの各団体の大会を運営し、諸団体との親睦も図りつつ毎年成果を上げています。

また、地区委員会は地域が安全・安心な環境であることを主眼として、地域と密接な連携のもとに組織運営しています。

## 2 現在の地区委員会の活動

### (1) 地区委員会主催

- ①スーパードッジボール大会 (平成14年開始～平成29年度は第16回開催)
  - \*地区内小学生対象 \*低学年・中学年・高学年の3編成 \*毎年6月第2日曜開催
  - \*平成29年度 80チーム 764名の参加で、年々増加し大盛況
- ②らくがきなくし隊
  - \*平成29年10月 第1回(船堀・新川地域)
  - \*近隣の小学校・諸団体の協力を得て実施
- ③学校関係者情報交換会
  - \*PTA・学校の代表者の情報交換
  - \*平成27年開始で平成29年度は3年目
  - \*6・11・2月の年3回開催
- ④陸上競技大会(平成29年度第16回実施)
  - \*毎年1月第4日曜 陸上競技場
  - \*8種目 \*小・中学生対象
  - \*平成29年度の参加者600名



### (2) 協力事業

- ①新川千本さくらまつり 4月
- ②地域の力で安全安心まちづくり大会 6月
- ③自転車盗ゼロ作戦 6月 \*3地区委員会合同
- ④葛西まつり 10月

### (3) 研修部

- ①地区委員会だより(年2回春・秋号発行)
  - \*平成30年4月で62号発行



＊町会・自治会、学校へ 20,000 部配布

＊地区委員会の年行事や町会・自治会、学校紹介

②地域諸団体情報交換会（平成 29 年度第 24 回）

＊テーマ「安心・安全な地域を目指して」

＊葛西警察署、町会・自治会、保幼、小・中・高等学校 PTA、地域諸団体の代表者の情報交換会

③ブロック研修会（平成 30 年 2 月第 35 回）

＊「青少年健全育成」を基本に、講師を依頼し講演を開催

＊地区内の諸団体が対象

（４）青少年部

①夜間パトロール（夏季 2 回）

＊地区内の公園を重点 青パト使用

＊「安心・安全な地域」を基本に実施

②手作り簡単クッキング（地区内の親子対象）

＊豆腐バーグ・餃子などの簡単メニューを調理しているが、年々応募者数が増加し、平成 29 年度は午前・午後の 2 回実施 ＊8 月

③迷走クイズ&ニュースポーツ（平成 30 年 2 月第 19 回）

＊地区内の小学校を輪番に会場とし、会場の周囲をクイズで巡り、終了後は温かい軽食とニュースポーツを楽しむ

（５）スポーツレク部



①混合ソフトボール大会（4 月）

＊町会・自治会、PTA、クラブ対象

②少年野球大会（6・7 月）

＊小・中学生対象

③男子・女子ソフトボール大会（9 月）

＊都立宇喜田公園

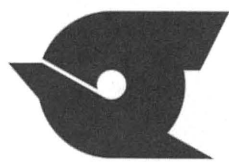
④卓球大会（2 月）

＊中学校体育館：他の大会に協力



### 3 今後の課題

青少年の犯罪は低年齢化し、スマートフォンの普及により SNS などのネット犯罪に巻きこまれる可能性が危惧されています。地区委員会は地域住民が安心・安全な環境であるよう、地域団体との協力・連携を深め、また新人委員の発掘を念頭にした健全育成への活動が課題です。



# ふれあい

## 1 地域の現況

葛西第二地区委員会は、葛西地区の南部に位置する葛西南部自治連絡協議会および葛西中央自治連絡協議会の範囲で、おおよそ東京メトロ東西線以南の地域の 33 町会・自治会の地域が対象です。

対象地域の住民は約 11 万 6 千人（10 年で 7 % 増加；平成 29 年 9 月現在）と江戸川区全体の約 17 % を占めており、17 地区委員会の中で最も人口の多い地域ということが特徴です。そのため、当地区委員会は各種団体と「連絡・調整」を密に行い、子どもたちに「ふれあえる場」を提供する大切な役割があると考えています。

## 2 現在の地区委員会の活動

### （1）地区委員会の構成

当地区委員会の構成員（地区委員）として対象地域内の各種団体には、当地区委員会行事の企画・運営等に幅広くご協力いただいています。地区委員は主にこの地域の、町会・自治会、PTA、子ども会、民生・児童委員協議会、保護司会などから推薦された方と、青少年委員・スポーツ推進委員です。委員の任期は 2 年です。また、役員会を中心に、研修部、スポレク部、広報部、青少年育成部の 4 つの専門部が活発に活動しています。

### （2）役員会の役割

当地区委員会では連絡機能を強化するため役員会を定例化し、毎月実施しています。役員会では、各専門部の状況報告や各役員からの行事、近況報告、問題点などが発表され、活発な意見が交わされています。また、4 つの専門部の再編や行事内容の見直しなど、この役員会を中心に常に改革が進んでいます。さらに、各専門部会に属さない事業の「自転車盗ゼロ作戦」「夏休みふれあいパトロール」「あいさつ運動標語コンクール」なども協力やまとめ役として活動しています。

### （3）研修部 ～おとなを対象にした研修事業～

部会を毎月実施しています。部では、地区委員をはじめとする成人を対象として、青少年をとりまく環境や教育、地域にちなんだ講演会や研修会を企画し運営をしています。最近では障害のある方の疑似体験と介助体験をする「おも活講座」や、葛西近辺の施設を見学する「葛西市場・江戸川清掃工場見学」、また、子どもたちの健康で豊かな生活と睡眠について学ぶ「睡眠講習会」などを実施し、地区委員はもちろん、地域の方々に関心を持ってもらえる題材を選んで実施します。



研修部 睡眠講習会

#### (4) スポレク部 ～子どもたちのスポーツを通した心身の健全育成事業～

部会を毎月実施しています。部会では子どもたち向けのレクリエーションを企画し、様々な体験活動の中で世代間のふれあいがもてる事業を実施しています。スポレク部で毎年1月に開催される「ふれあいニューイヤーマラソン大会」が最大のイベントです。毎年たくさんの方が参加し、平成29年1月の第33回大会は既に2,000名規模になりました。当地区委員会だけの運営は難しく、地域の各団体の協力を得ながら実施している当地区委員会最大の行事となっています。ここでの一番人気は親子が一緒に陸上競技場とその周辺を走る「親子マラソン」が最大の見せ場です。



スポレク部 ふれあいニューイヤーマラソン大会

その他に、「工作教室とつり大会」(毎年7月)、「スーパードッジボール大会」(毎年2月)もスポーツを通してふれあうことを重視しています。

#### (5) 広報部 ～地区委員会活動を地域に伝える広報活動～

部会を広報誌発行前に開催しています(不定期)。当地区委員会活動の幅広い周知及び地域の青少年育成への関心・向上のため、広報誌「ふれあい」(A4・4ページ・年2回配布・現在75号)を発行しています。各専門部が行った行事の記事や今後の活動予定、地域コミュニティ紙への情報提供や連絡など、当地区委員会の顔となる活動を行っています。



広報部 編集会議

#### (6) 青少年育成部 ～子どもを対象にした育成事業～

部会を毎月実施しています。「作って遊んで楽しもう!」を合言葉に子どもたちが創意・工夫し、ものづくりを通じて遊べる活動を実施しています。毎月の部会では、新しいものづくりを研修し、実際の活動に役立てています。主に葛西区民館を会場として、毎月最終日曜日午前中に、「おもしろば〜く」を実施しています。会場はプラ板工作、紙飛行機、バルーンアートやブレスレット作りなど、作って遊べる面白さが体験できるものがいつも満載です。

また、随時小学校PTAからの要望で小学校の体育館を会場として行う「おもしろ発見探偵団」(「おもしろば〜く」の小学校出張版)、自分で作った凧を葛西海滨公園・西なぎさで飛ばす「たこあげ大会」(毎年11月)などの活動もしています。



青少年育成部 おもしろば〜く

### 3 今後の課題

この地域では住民も参加団体も多く、連絡・調整機能の一層の充実が求められています。また、各種行事も多く、参加する役員・地区委員がどうしても限られ、負担が多くなることも改善すべき課題です。これらの課題に対しては役員会の機能をより強化し、地区委員会全体でも真摯に取り組みつつ、これからも地域に密着した活動を目指していこうと考えています。

# 各地区委員会歴代委員長名簿

| 地 区   | 氏 名     | 在任期間    |
|-------|---------|---------|
| 小 松 川 | 田 口 巖   | S31～32  |
|       | 山 沢 真 竜 | S33～35  |
|       | 田 口 八十雄 | S36～37  |
|       | 工 藤 清   | S38～40  |
|       | 直 井 幸三郎 | S41～44  |
|       | 露 木 栄 造 | S45～48  |
|       | 小 川 善 雄 | S49～H15 |
|       | 石 坂 教 一 | H16～17  |
|       | 鈴 木 安 明 | H18～23  |
|       | 小 暮 淑 子 | H24     |
| 平 井   | 松 岡 直 喜 | S31～32  |
|       | 若 林 光 春 | S33～39  |
|       | 滝 沢 万之助 | S40     |
|       | 伊 藤 達 美 | S41     |
|       | 滝 沢 万之助 | S42～48  |
|       | 伊 藤 達 美 | S49～55  |
|       | 札 木 帛 男 | S56～58  |
|       | 上 村 昭 次 | S59～H1  |
|       | 川久保 昌 明 | H2～5    |
|       | 鈴 木 基 夫 | H6～13   |
|       | 酒 井 四 郎 | H14～16  |
| 小松川平井 | 浅 見 也寿子 | H17～21  |
|       | 平 形 正 邦 | H22～24  |
|       | 平 形 正 邦 | H25～    |
| 松 江 南 | 川 合 実   | S31     |
|       | 大 友 基 順 | S32～37  |
|       | 坂 井 時 雄 | S38     |
|       | 大 友 基 順 | S39～60  |
|       | 三 谷 秀 順 | S61～H11 |
|       | 真 田 康 子 | H12～26  |
|       | 神 原 喜 一 | H27～    |
| 松 江 北 | 泰 菊太郎   | S31～34  |
|       | 加 藤 宗 平 | S34～44  |
|       | 石 亀 日出男 | S45～48  |
|       | 白 川 眞 平 | S49～51  |
|       | 青 山 倭 文 | S52～53  |
|       | 榎 本 三 郎 | S54～58  |
|       | 室 伏 武   | S59～62  |

|                 |          |           |
|-----------------|----------|-----------|
| (松江北)           | 富 沢 正 隆  | S63～H1    |
|                 | 石 河 達 夫  | H2～3      |
|                 | 宮 川 一 義  | H4～16     |
|                 | 金 井 兼 吉  | H17～21    |
|                 | 田 崎 國 男  | H22～      |
| 西小松川            | 寺 尾 悟    | S31～43    |
|                 | 佐 藤 俊 二  | S44～48    |
|                 | 竹 内 今朝雄  | S49～56    |
|                 | 勝 木 信 男  | S57～H3    |
|                 | 田 中 稔 家  | H4～       |
| 一之江<br>(S45 発足) | 高 橋 悟    | S45～47    |
|                 | 彦 田 敬次郎  | S47～49    |
|                 | 福 島 安 正  | S50～H7    |
|                 | 岩 楯 公 延  | H8～11     |
|                 | 山 中 健    | H12～15    |
|                 | 堀 江 保 夫  | H16～20    |
|                 | 石 川 正 和  | H21～24    |
|                 | 藤 波 敏 明  | H25～      |
| 小岩中部            | 谷 幸 一    | H31～37    |
|                 | 垣 内 鶴 松  | S38～45    |
|                 | 宮 本 忠 雄  | S46～63    |
|                 | 田 辺 哲 子  | S63～H21   |
|                 | 有 田 金 治  | H22～24    |
|                 | 皆 川 誠 司  | H25～26. 6 |
|                 | 遠 藤 吉 信  | H26. 7～   |
| 北 小 岩           | 石 井 伊三郎  | S31～32    |
|                 | 石 井 好 治  | S32～35    |
|                 | 中 川 儀 郎  | S36～63    |
|                 | 田 辺 金 蔵  | S63～H3    |
|                 | 斉 藤 熊 蔵  | H4～9      |
|                 | 坂 本 勉    | H10～26    |
|                 | 井 上 房 雄  | H27～      |
| 西 小 岩           | 辻 村 精一郎  | S31～32    |
|                 | 五十嵐 正 義  | S33～35    |
|                 | 山 口 重 泰  | S36～51    |
|                 | 橋 本 光    | S52～H7    |
|                 | 山 口 恵美子  | H8～9      |
|                 | 臼 井 喜久三郎 | H10～20    |
|                 | 飯 島 美智子  | H21～      |

|                |         |            |
|----------------|---------|------------|
| 南小岩            | 名 取 盛 雄 | S31～36     |
|                | 島 田 鉄 也 | S37～43     |
|                | 西 川 康 治 | S44～48     |
|                | 竹 中 重 夫 | S49～H9     |
|                | 海老原 誠 治 | H10～17     |
|                | 緑 川 博   | H18～21     |
|                | 平 林 敬 三 | H22～27     |
|                | 海老根 衛   | H28～       |
| 下小岩            | 恒 川 皓 一 | S31        |
|                | 山 田 秀 次 | S32～34     |
|                | 久 米 直 之 | S35～39     |
|                | 山 田 秀 次 | S40        |
|                | 久 米 直 之 | S41        |
|                | 山 田 秀 次 | S42～43     |
|                | 久 米 直 之 | S44        |
|                | 野 崎 長 衛 | S45～62     |
|                | 斉 藤 恒 二 | S63～H7     |
|                | 伊 藤 薫 子 | H8～11      |
|                | 小 杉 一 枝 | H12～21     |
|                | 宮 川 惠 史 | H22～24. 9. |
|                | 斎 藤 文 男 | H24. 9. ～  |
| 鹿 本            | 田 島 衛   | S31～48     |
|                | 山 崎 澄 夫 | S49        |
|                | 佐 藤 幸 一 | S50～54     |
|                | 木 村 伸 行 | S55～H3     |
|                | 相 馬 信 義 | H4～5       |
|                | 松 井 清   | H6～15      |
|                | 村 山 保 男 | H16～19     |
|                | 市 川 省 三 | H20～27     |
|                | 村 山 寿太郎 | H28～       |
| 京 葉<br>(S53発足) | 松 丸 利 男 | S53～54     |
|                | 永 井 淳   | S55～56     |
|                | 岩 楯 武 男 | S57～58     |
|                | 松 原 悦 郎 | S59～60     |
|                | 伊 藤 一 郎 | S61～62     |
|                | 岩 楯 武 男 | S63～H1     |
|                | 小 泉 敏 夫 | H2～5       |
|                | 石 井 善 作 | H6～7       |
|                | 島 田 要 人 | H8～9       |

|       |         |         |
|-------|---------|---------|
| (京 葉) | 大 島 重 信 | H10～15  |
|       | 小 林 秀 康 | H16～17  |
|       | 鈴 木 明   | H18～    |
| 瑞 江   | 露 木 清 一 | S31～34  |
|       | 越 山 与四郎 | S35     |
|       | 高 橋 悟   | S36～44  |
|       | 八武崎 昌 久 | S45～52  |
|       | 岩 楯 義 雄 | S53～62  |
|       | 須 賀 賢 一 | S63～H17 |
|       | 栗 山 利 宏 | H18～    |
| 篠 崎   | 小 熊 寛 澄 | S31～54  |
|       | 高 橋 惣 平 | S55～56  |
|       | 森 藤 夫   | S57～H19 |
|       | 石 塚 三 郎 | H20～23  |
|       | 竹 内 善 衛 | H24～    |
| 葛 西   | 西 野 道之助 | S31～35  |
|       | 清 水 恵 隆 | S36～37  |
|       | 西 野 道之助 | S38～40  |
|       | 清 水 恵 隆 | S41～63  |
|       | 西 野 博   | S63～H5  |
|       | 岩 崎 芳 雄 | H6～9    |
|       | 中 里 治 男 | H10～17  |
|       | 飯 田 弘   | H18～21  |
|       | 伊 東 久 夫 | H22～    |
| 葛西第一  | 宇田川 政 男 | S31～39  |
|       | 加 藤 鋳 吉 | S40～43  |
|       | 佐 伯 幸 作 | S44～50  |
|       | 小 山 昱   | S51～H13 |
|       | 喜 渡 英 行 | H14～23  |
|       | 伊 藤 文 夫 | H24～    |
| 葛西第二  | 森 岩 蔵   | S31～45  |
|       | 松 下 秀 次 | S46～50  |
|       | 森 政 雄   | S51～52  |
|       | 田 中 寿三郎 | S53～61  |
|       | 彦 田 好四郎 | S62～H5  |
|       | 森 長太郎   | H6～9    |
|       | 篠 原 昌 芳 | H10～19  |
|       | 清 宮 高 義 | H20～    |

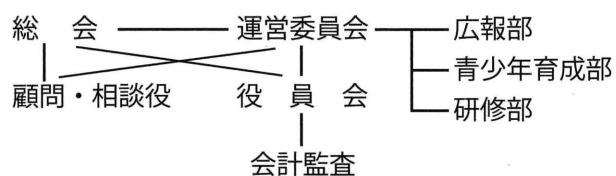


## 各地区委員会の組織図・委員数

### ○小松川平井地区委員会(委員数137人)



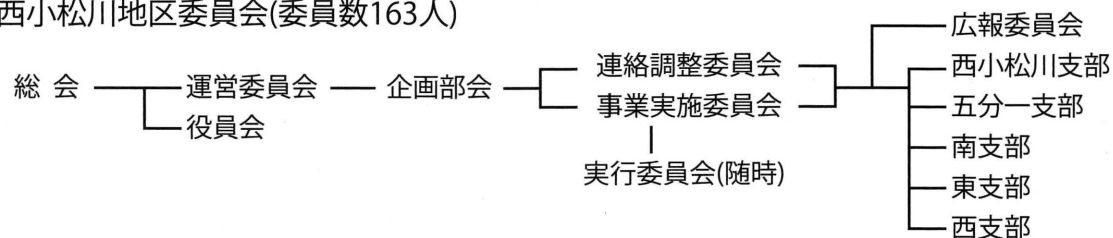
### ○松江南地区委員会(委員数142人)



### ○松江北地区委員会(委員数74人)



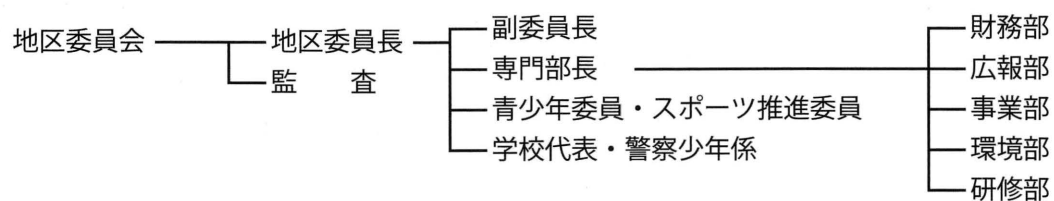
### ○西小松川地区委員会(委員数163人)



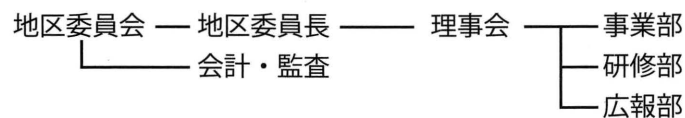
○一之江地区委員会(委員数70人)



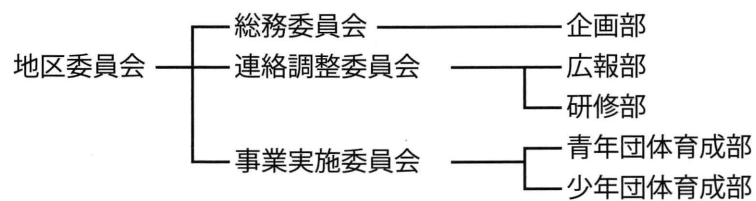
○小岩中部地区委員会(委員数58人)



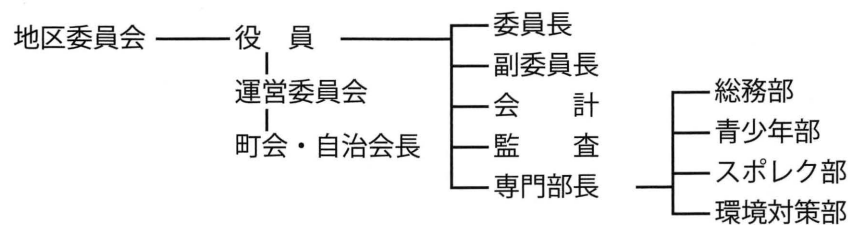
○北小岩地区委員会(委員数74人)



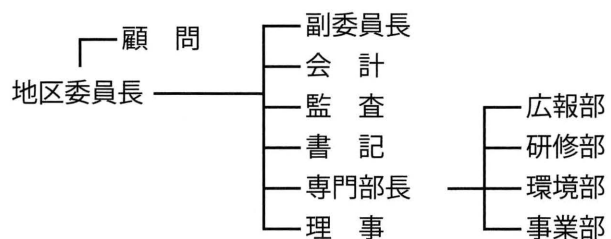
○西小岩地区委員会(委員数78人)



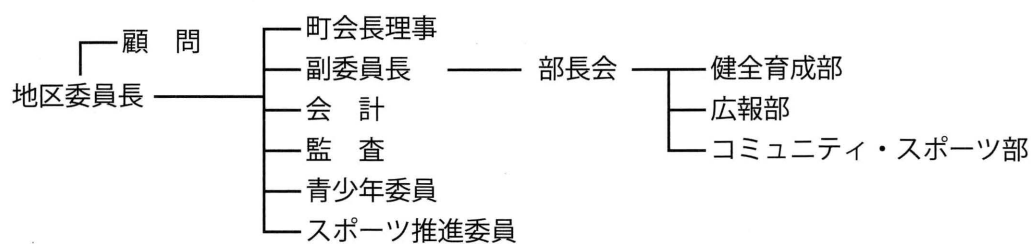
○南小岩地区委員会(委員数39人)



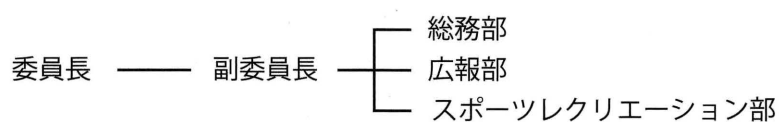
○下小岩地区委員会(委員数68人)



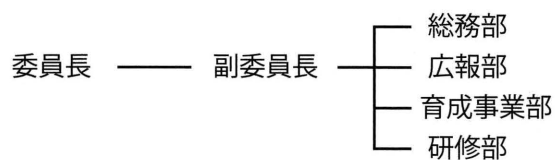
○鹿本地区委員会(委員数70人)



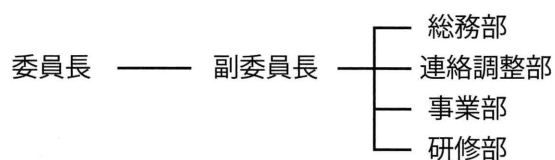
○京葉地区委員会(委員数72人)



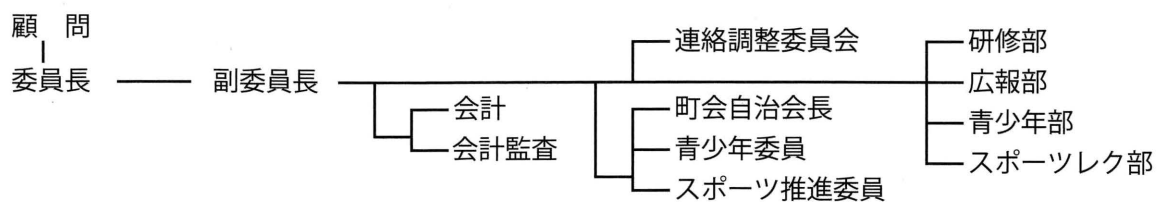
○瑞江地区委員会(委員数99人)



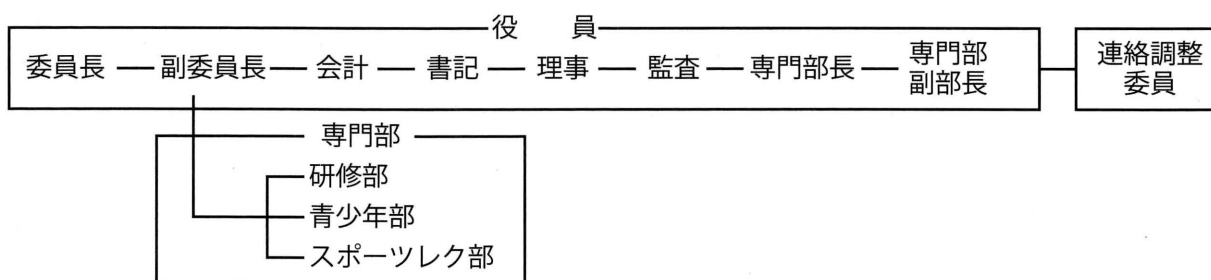
○篠崎地区委員会(委員数74人)



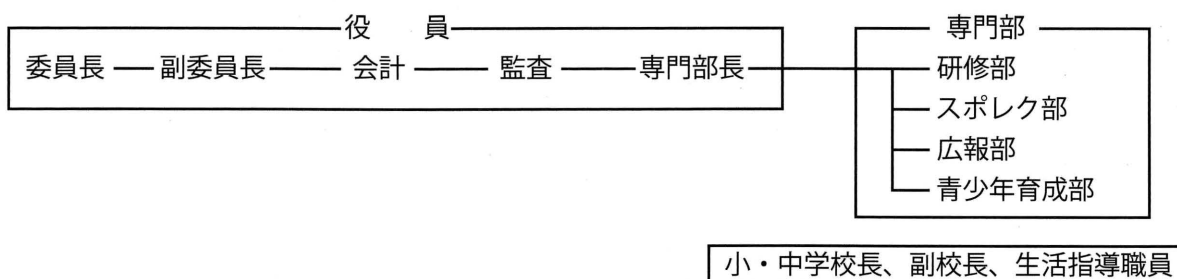
○葛西地区委員会(委員数97人)



○葛西第一地区委員会(委員数113人)



○葛西第二地区委員会(委員数172人)



# あ と が き

編集委員長 伊藤 文夫

青少年育成地区委員会設立から 60 年が経ちました。

10 年ごとの区切りに発刊する記念誌作成にかかわり、皆さんと共にこの事業を務め終わることができましたことは編集委員の喜びです。

さて、この 10 年で青少年の生活環境が大きく様変わりしました。その中でも地区委員会は高齢化・委員不足の問題等を抱えながらも各地区委員会が特色ある工夫を凝らし、黙々と努力を重ね、子どもたちのためにと活動を続けてきました。この活動が次の 10 年に継続していくことと思います。東京オリンピック・パラリンピック競技大会を 2020 年に控え盛り上がりを見せておりますが、その後に 2025 年問題（団塊の世代が後期高齢者に）へとも進んでいきます。少子高齢化がますます進む中、次の 10 年に向かい各地区委員会が地域の中で子ども・大人共々みんなの笑顔がわく活動が普通に続く事を願い、あとがきといたします。

結びに、編集委員・各地区委員執筆担当者・関係者の皆さまのご協力に感謝申し上げます。

## 青少年育成地区委員会設立 60 周年記念誌編集委員

|       |       |      |       |
|-------|-------|------|-------|
| 編集委員長 | 伊藤 文夫 | 編集委員 | 斎藤 文男 |
| 編集委員  | 平形 正邦 | 編集委員 | 村山寿太郎 |
| 編集委員  | 藤波 敏明 | 編集委員 | 竹内 善衛 |

## 青少年育成地区委員会設立 60 周年記念誌各地区執筆担当者

|       |       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 小松川平井 | 木村 義和 | 泉山 耕一 | 南 小 岩 | 澁谷喜代勝 | 花房ハルミ |
| 松 江 南 | 三谷 順秀 | 矢作 淳子 | 下 小 岩 | 澤田 陽子 | 中野ヤス子 |
| 松 江 北 | 田崎 國男 | 笹田 慎治 | 鹿 本   | 伊藤 公一 | 大沼 孝行 |
| 西小松川  | 廣木 米子 | 川野 報子 | 京 葉   | 奥村 晃  | 塚原 正紀 |
| 一 之 江 | 仁戸 共代 | 岩楯 厚子 | 瑞 江   | 横井 由美 | 萩原佐智子 |
| 小岩中部  | 遠藤 吉信 | 林 伸子  | 篠 崎   | 鷺尾 斎  | 田村 憲司 |
|       | 杉山 桂子 | 中川 隆  | 葛 西   | 大浦 哲也 | 古谷 利夫 |
| 北 小 岩 | 阿部 直美 | 飯島 小弓 | 葛西第一  | 江原 勝雄 | 中田 信子 |
| 西 小 岩 | 高橋 清  | 高田 憲子 | 葛西第二  | 高橋 哲也 | 木下真理子 |



江戸川区青少年育成地区委員会設立60周年記念誌

## 地域のきずな60年

発行日 平成30年3月10日

発行者 江戸川区青少年育成地区委員会

編集 江戸川区青少年育成地区委員会

江戸川区文化共育部健全育成課

